

FUJITSU Software ServerView Suite

V13.19.01

更新履歴

版数	変更内容	日付
初版	新規作成	2019年2月20日
2版	対象OSを更新しました。 ServerView Installation Managerの留意事項を更新しました。 ServerView RAID Managerの留意事項を更新しました。	2019年4月12日
3版	ServerView Installation Managerの留意事項を更新しました。	2019年4月26日
4版	ServerView Installation Managerの留意事項を更新しました。	2019年7月23日
5版	ServerView Installation Managerの留意事項を更新しました。	2019年11月1日

目次

FUJITSU Software ServerView Suite V13.19.01	1
1 ServerView Suite のサポートポリシーについて	2
2 対象OSおよび対象機種	3
3 格納ソフトウェア	7
4 SVS V13.19.01 での変更点	8
5 媒体	9
6 留意事項	10
6.1 ServerView Operations Manager の留意事項	10
6.2 ServerView Agents の留意事項	26
6.3 ServerView Installation Manager (SVIM) の留意事項	32
6.4 ServerView Virtual-IO Manager (VIOM) の留意事項	46
6.5 ServerView ESXi CIM Provider の留意事項	47
6.6 ServerView RAID Manager の留意事項	48
6.7 ServerView Update Agent の留意事項	51
6.8 ServerView Storage Manager についての留意事項	52
6.9 ServerView Status Monitor の留意事項	53
6.10 リモートマネジメントコントローラ (iRMC) の留意事項	54
6.11 PrimeCollect の留意事項	55
6.12 Scripting Toolkit の留意事項	56
6.13 定期交換部品、消耗品の交換予告／交換時期通知を行う方法の留意事項	57
6.14 Java に関する留意事項	58

1 ServerView Suite のサポートポリシーについて

ServerView Suite は、インストール対象のハードウェア(*1)についての、有効な保証書がある場合、もしくは SupportDesk 契約が締結されている場合に、以下のサポートを実施いたします。

サービス内容		保証書期間中 (SDK 契約なし)	SDK 契約あり
QA/トラブルの受付・回答 (*2)		○	○
修正パッチの提供 (*3)		—	—
情報提供 (SDK- Web)	事例検索	—	○
	お問い合わせ履歴	—	○

(*1) 保守期限内の FUJITSU Server PRIMERGY(以下、PRIMERGY)、もしくは FUJITSU Server PRIMEQUEST(以下、PRIMEQUEST)に限ります。

PRIMERGY のモデルごとの保守期限は以下で公開されています。

「FUJITSU Server PRIMERGY 製品情報ナビ」

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/product-navi/>

PRIMEQUEST のモデルごとの保守期限は各モデルのシステム構成図で公開されています。

「基幹 IA サーバ FUJITSU Server PRIMEQUEST (プライムクエスト)」

<http://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/>

(*2) インストール対象の OS が、富士通のサポート期間内である場合に、QA/トラブルの受付・回答を実施いたします。尚、各 OS ベンダーのサポート期間終了後は、ナレッジベースの範囲で回答いたします。

(*3) ServerView Suite に対する修正パッチの提供はありません。不具合を修正する場合には、不具合が確認された時点以降に公開されるバージョンで修正を行います。

バージョンアップ版は以下のページから無償で入手することができます。

「FUJITSU Server PRIMERGY ダウンロード」

<http://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/downloads/>

「PRIMEQUEST > ダウンロード」

<http://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/download/>

障害調査を行った結果、不具合が確認された場合、不具合が修正されたバージョンもしくは修正される予定のバージョンについての情報、もしくは回避方法をご案内します。

(バージョンは複数の数字の組合せで表されます。(例: 11.14.11、5.0.1.0))

これは、バージョンアップ版の提供を保証するものではありません。

バージョンアップ版は当社ホームページより無償で入手できますが、各 OS ベンダーのサポート期間が終了した OS や販売終了から一定期間が経過したハードウェアに対しては提供が行われません。(一定期間の目安は 2 年ですが、技術的問題や市場の動向等により前後します。)

2 対象 OS および対象機種

以下は、格納する ServerView 製品がインストール対象としてサポートする OS です。

Operations Manager や RAID Manager が監視対象としてサポートする OS は含みません。

		Operations Manager	Agents(*1)	Agentless Service (*2)	Installation Manager	Virtual-IO Manager	RAID Manager (*3)	Update Agent	Storage Manager (*4)
		8.51.00	9.00.08	9.00.08	13.19.01	3.8.08	6.8.0	8.40.01	8.0.2-0
Windows									
2008 (SP2)	Foundation	○						○	
	Standard	○				○		○	○
	Enterprise	○				○		○	○
	Datacenter	○				○		○	
	Web	○						○	○
SBS 2008 (SP2)	Standard	○						○	
	Premium	○						○	
EBS 2008	Standard	○						○	
	Premium	○						○	
2008 R2 (SP1)	Foundation	○						○	
	Standard	○				○		○	○
	Enterprise	○				○		○	○
	Datacenter	○				○		○	
	Web	○				○		○	○
	HPC	○						○	
SBS 2011	Standard	○			○				
	Essentials	○			○		○	○	
2012	Foundation	○	○	○	○	○	○	○	
	Standard	○	○	○	○	○	○	○	○
	Datacenter	○	○	○	○	○	○	○	○
	Essentials		○	○	○		○	○	
	Hyper-V				○				
	Storage (*5)				○				
2012 R2	Foundation	○	○	○	○	○	○	○	
	Standard	○	○	○	○	○	○	○	○
	Datacenter	○	○	○	○	○	○	○	○
	Essentials		○	○	○		○	○	
	Hyper-V				○				
	Storage (*5)	○	○	○	○		○	○	
2016	Standard	○	○	○	○		○	○	○
	Datacenter	○	○	○	○		○	○	○
	Essentials	○	○	○	○		○	○	○
	Hyper-V				○				
Storage 2016	Standard	○	○	○	○		○	○	
	Workgroup				○				
version 1709			○	○	○		○		
version 1803			○	○	○		○		
2019	Standard	○	○	○	○		○	○	○
	Datacenter	○	○	○	○		○	○	○
	Essentials	○	○	○	○		○	○	○
version 1809			○	○	○		○		○

(*1) ServerView Suite V12.17.09 以降に添付の ServerView Agents は 64bit のみサポートします。

32bit モジュールが必要な場合、別途 V7.31 以前のバージョンをダウンロードしてください。

- (*2) ServerView Agentless Service は 64bit のみサポートします。
- (*3) ServerView Suite V12.17.09 以降に添付の ServerView RAID Manager は 64bit のみサポートします。
32bit モジュールが必要な場合、別途 V6.4 以前のバージョンをダウンロードしてください。
- (*4) ServerView Suite V12.18.02 以降に添付の ServerView Storage Manager は 64bit のみサポートします。
32bit モジュールが必要な場合、別途 V7.0.1 以前のバージョンをダウンロードしてください。
- (*5) サポートする Windows Storage Server は、Standard Edition のみです。

		Operations Manager	Agents	Agentless Service (*1)	Installation Manager	Virtual-IO Manager	RAID Manager	Update Agent (*4)	Storage Manager (*5)
		8.51-00	8.51.10	8.51.10	13.19.01	3.8.08	6.8.0	8.41-00	8.0.2-0
Red Hat Enterprise Linux									
5.10							○	○	
5.11						○	○	○	
6.0~6.3									○
6.4~6.6								○	○
6.7		○	○(*2)	○		○	○	○	○
6.8						○		○	○
6.9						○	○	○	○
6.10		○	○(*3)	○	○	○	○	○	○
	HPC				○				
7.0						○		○	○
7.1						○		○	○
7.2						○		○	○
7.3		○	○	○		○	○	○	○
7.4		○	○	○	○	○	○	○	○
	HPC				○				
7.5		○	○	○	○	○	○	○	○
	HPC				○				
7.6		○	○	○	○	○	○	○	
	HPC				○				
SUSE Linux Enterprise Server									
11	SP3							○	
	SP4		○	○	○		○	○	
12								○	
	SP1						○	○	
	SP2						○	○	
	SP3		○	○	○		○	○	
	SP4		○	○	○		○	○	
	15		○	○	○		○	○	○
VMware ESXi									
6.0	Update1				○				
	Update2				○				
	Update3				○				
6.5					○				
	Update1				○				
	Update2				○				
6.7					○				
	Update1				○				

(*1) ServerView Agentless Service は 64bit のみサポートします。

(*2) ServerView Agents は RedHat Enterprise Linux 6.7 で 32bit 環境を使用している場合、V7.31.16 でのサポートとなります。

(*3) ServerView Agents は RedHat Enterprise Linux 6.10 で 32bit 環境を使用している場合、未サポートとなります。

(*4) ServerView Update Agent V8.41-00 は 64bit のみサポートします。32bit モジュールが必要な場合、別途 V8.00 以前のバージョンをダウンロードしてください。

(*5) ServerView Suite V12.18.02 以降に添付の ServerView Storage Manager は 64bit のみサポートします。

32bit モジュールが必要な場合、別途 V7.0.1 以前のバージョンをダウンロードしてください。

以下は ServerView Installation Manager (以下、SVIM)がサポートする機種です。

BX2560 M1 / M2、BX2580 M1 / M2

CX1640 M1、CX2550 M2 / M4、CX2560 M4、CX2570 M2 / M4

RX300 S8

RX1330 M2 / M3 / M4

RX2520 M1 / M4、RX2530 M1 / M2 / M4、RX2540 M1 / M2 / M4、RX2560 M2

RX4770 M2 / M3 / M4

TX1310 M1 / M3、TX1320 M2 / M3 / M4、TX1330 M1 / M2 / M3 / M4

TX2540 M1、TX2550 M4、TX2560 M2

以下は SVIM がサポートする VMware ESXi のカスタムイメージ版数です。

ESXi6.0 Update1 : v361-1

ESXi6.0 Update2 : v370-2、v371-1

ESXi6.0 Update3 : v380-1、v381-1、v382-1

ESXi6.5 : v400-1、v401-1、v402-1

ESXi6.5 Update1 : v410-1、v411-1、v412-1

ESXi6.5 Update2 : v420-1、v421-1

ESXi6.7 : v450-1、v451-1

ESXi6.7 Update1 : v460-1

版数はファイル名の末尾でご確認ください。

例: VMware-ESXi-6.7.0-10302608-Fujitsu-v460-1.iso

OS と機種の組合せがサポートされるかは、下記の URL でご確認ください。

PRIMERGY の OS 対応

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/software/primergy-os/>

VMware ESXi がサポートする機種

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/software/vmware/pdf/esx-s.pdf>

3 格納ソフトウェア

以下は、DVD2に格納する主な ServerView 製品です。

	Windows	Linux
ServerView Operations Manager / Update Manager	V8.51.00	V8.51-00
ServerView Agents	V9.00.08	V8.51.10 (*1)(*2)
ServerView Agentless Service	V9.00.08	V8.51.10
ServerView Virtual-IO Manager	V3.8.08	V3.8.08
ServerView ESXi CIM Provider	-	V8.51.02 (*3)
ServerView RAID Manager	V6.8.0	V6.8.0
ServerView Update Agent	V8.40.01	V8.41-00
ServerView Storage Manager	V8.0.2-0	V8.0.2-0
PrimeUp	V1.18.01	-
DSNAP	V4.0L20	-
ソフトウェアサポートガイド	V2.0L90	-
富士通 Linux サポートパッケージ	-	1.7-0

(*1) Agents は RedHat Enterprise Linux 6.7 で 32bit 環境を使用している場合、V7.31-16 でのサポートとなります。

(*2) Agents は RedHat Enterprise Linux 6.10 で 32bit 環境を使用している場合、未サポートとなります。

(*3) 対象 OS は VMware ESXi 6.0 / 6.5 / 6.7 ですが、下記ディレクトリへの格納となっています。

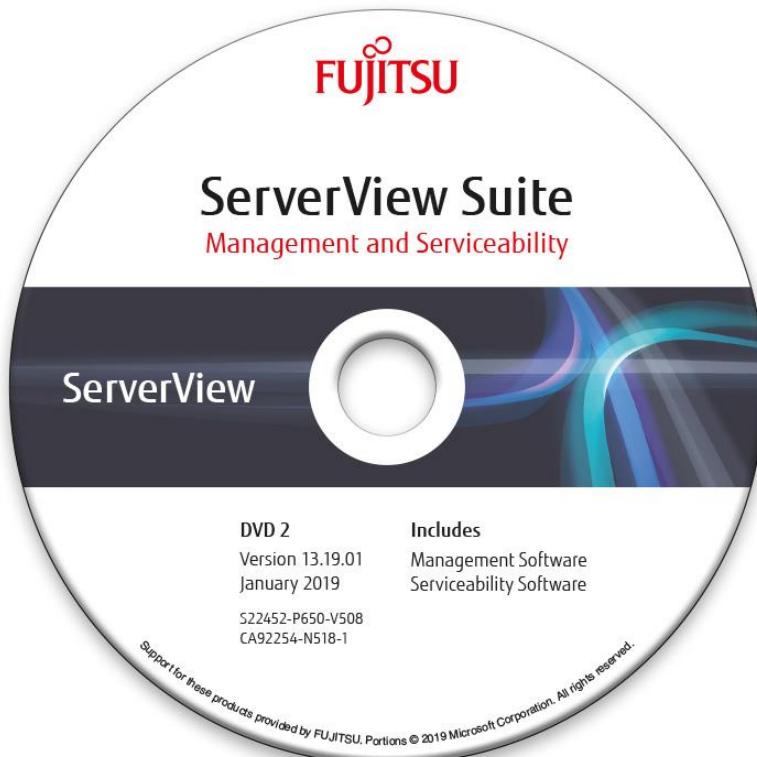
<DVD ドライブ>¥SVSSoftware¥Software¥ServerView¥Linux¥CIM_Providers¥VMware_ESXi¥ESXi6x

4 SVS V13.19.01 での変更点

	変更点
対象 OS および対象機種	
ServerView Operations Manager	<p>2 版</p> <p>次の留意事項を追加しました。</p> <p>(2) DVD2 からのインストール方法</p>
ServerView Agents / ServerView Agentless Service	
ServerView Installation Manager	<p>2 版</p> <p>次の留意事項を追加しました。</p> <p>(1) ServerView Operations Manager のインストール</p> <p>(28) 内蔵 DVD ドライブから SVIM を起動できない場合があります 非サポートの Windows Server 2008 R2 に関する留意事項を削除しました。</p> <p>3 版</p> <p>次の留意事項を修正しました。</p> <p>(1) ServerView Operations Manager のインストール</p> <p>4 版</p> <p>次の留意事項を追加しました。</p> <p>(29) RAID 構成が表示されない場合があります</p> <p>(30) smbus ドライバについて</p> <p>(31) PrimeCollect を使用できません</p> <p>5 版</p> <p>次の留意事項を追加しました。</p> <p>(32) Windows インストール時に日本語を入力できません</p>
ServerView Virtual-IO Manager	
ServerView CIM Provider	
ServerView RAID Manager	<p>2 版</p> <p>次の留意事項を修正しました。</p> <p>(15) シングルサインオンとロールベースのアクセス制御の制限</p>
ServerView Update Agent	
ServerView Storage Manager	
ServerView Status Monitor	
PrimeCollect	

5 媒体

添付ソフトウェア／ドライバ



6 留意事項

6.1 ServerView Operations Manager の留意事項

(1) 前バージョンからの主な変更点

Windows 版 ServerView Operations Manager V8.50.02、

Linux 版 ServerView Operations Manager V8.50-02 からの主な変更点です。

- 新 OS をサポートしました

Red Hat Enterprise Linux 7.6

(2) ServerView Operations Manager クイック導入ガイド

本 DVD に格納されている ServerView Operations Manager を Windows 上で使用するための、基本的な設定をまとめた「ServerView Operations Manager クイック導入ガイド」が、ServerView Suite DVD 2 の以下のフォルダに格納されています。

<DVD ドライブ>¥SVSLocalTools¥Japanese¥Svmanage¥Manual

ServerView Operations Manager のインストール前及びインストール時の参考資料として参照ください。尚このガイドは、Windows 環境にデフォルト設定でのインストールを行うことを前提に説明されています。Linux 環境にインストールする場合や、任意で設定の変更を行う場合など、その他詳細な情報につきましては、ServerView Suite ServerBooks DVD に格納されているマニュアルを参照願います。

(3) 他プログラムとの連携ツール

本 ServerView Suite DVD 2 内の下記のフォルダに、Systemwalker や信号灯と連携するツールなどが格納されています。必要に応じて適宜ご活用ください。各ツールの詳細は、ツールごとのフォルダに格納されている Readme.txt をご覧ください。

格納フォルダ:

<DVD ドライブ>¥SVSLocalTools¥Japanese¥Svmanage¥Tools

ツール(カッコ内は格納フォルダ名):

- Systemwalker 連携用ファイル (SystemWalker)
- 信号灯制御プログラム連携ツール (PHN_3FB)
- ServerView トラブル転送プログラム for Linux (TrapServer)
- firewall 設定ツール for VMware (VMware)

(4) ServerView Operations Manager GUI の起動方法

ServerView Operations Manager V8 以降の GUI の起動方法は、V7 以前の WEB ブラウザ + Java Plugin による方式から Java Web Start による方式に変わりました。

詳細は「(2) ServerView Operations Manager クイック導入ガイド」で紹介されている、クイック導入ガイドおよびマニュアルを参照願います。

(5) PRIMERGY CX400 の監視

ServerView Operations Manager を使用して、PRIMERGY CX400 S1/S2 の監視を行う際、他の PRIMERGY に対して動作の異なる点、及び使用できない機能があります。

詳細は以下に掲載しております、「ServerView Operations Manager と Agents による PRIMERGY CX400 のサーバ監視の留意事項」を参照願います。

VMware ESXi を ServerView ESXi CIM Provider を使用して監視する場合も同様です。

留意事項内の Agents を ServerView ESXi CIM Provider に読み替えてご参照ください。

- PRIMERGY CX400 S1 マニュアル

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/manual/manual-cx400s1-201203.html>

- PRIMERGY CX400 S2 マニュアル

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/manual/manual-cx400s2-201309.html>

(6) Microsoft Internet Explorer のサポートバージョン

Microsoft Internet Explorer を使って、ServerView Operations Manager にアクセスする場合には、バージョン 9、10 もしくは 11 をお使いください。

Microsoft Internet Explorer のバージョン 8 やそれ以前のバージョンを使って、本 DVD に格納されているバージョンの ServerView Operations Manager にアクセスすることはできません(非サポート)。

現在 Microsoft Internet Explorer のバージョン 8 以前をお使いで、バージョン 9、10 もしくは 11 にアップデートする場合、Windows Update などを使ってアップデート行ってください。本 DVD には Microsoft Internet Explorer のアップデートモジュールは格納されていません。

注意:

ブラウザは使用する OS がサポートするバージョンをご使用ください。

上記の ServerView Operations Manager がサポートするバージョンであっても OS が未サポートの環境では動作は保障されません。

(7) JRE をアップデート、アンインストールする際の留意

Windows 環境において本 DVD に格納されているバージョンの ServerView Operations Manager がインストールされた状態で、JRE(Java Runtime Environment)をアップデート、アンインストールする場合、以下の手順で行ってください。

- 1) ServerView Operations Manager のサービスを停止します。

停止:

1. ServerView Download Service
2. ServerView Services
3. ServerView ApplicationService
4. ServerView Apache Directory Server (*)

- 2) 古い版数の JRE をアンインストールします。(任意)

- 3) 新しい版数の JRE をインストールします。

- 4) 以下のファイルを実行し、アップデートを行ってください。

ファイルパス:

<SVOM インストールディレクトリ>\tomee\bin\service.bat update

- 5) ServerView Operations Manager のサービスを開始します。

開始:

1. ServerView Apache Directory Server (*)
2. ServerView ApplicationService
3. ServerView Services
4. ServerView Download Service

*:インストール手順により存在しない場合があります。

(8) マニュアルの正誤

ServerView Suite ServerBooks DVD に格納されている、以下のマニュアルの記載に誤りがあります。

1) マニュアル名:sv-performance-jp.pdf (ServerView Performance Manager)

ページ:46

誤

```
<ServerView のインストールディレクトリ>¥
ServerViewServices¥wwwroot¥ServerView¥CSVFiles¥< サーバ名>
```

正

```
<ServerView のインストールディレクトリ>¥
¥svom¥data¥ServerView¥CSVFiles¥< サーバ名>
```

ページ:48

誤

- Windows の場合
 - ServerView Web-Server (Apache for Win32 ベース) の場合
 - [システムドライブ] :¥Program Files¥Fujitsu¥ServerView Suite¥
ServerView¥ServerView Services¥wwwroot¥ServerView¥CSVFiles¥
「サーバ名」¥
 - IIS の場合
 - [システムドライブ] :¥Inetpub¥wwwroot¥ServerView¥CSVFiles¥
「サーバ名」¥
 - Linux の場合
 - /opt/fujitsu/ServerViewSuite/web/html/ServerView/CSVFiles/「サーバ名」

正

- Windows の場合
 - [システムドライブ] :¥Program Files¥Fujitsu¥ServerView Suite¥
svom¥data¥ServerView¥CSVFiles¥「サーバ名」¥
- Linux の場合
 - /opt/fujitsu/ServerViewSuite/svom/data/ServerView/CSVFiles/「サーバ名」

ページ:53~58

誤

関連マニュアル一覧

:

正

ServerView Suite のマニュアル

マニュアルについては、ServerView Suite のマニュアルを参照してください。
マニュアルはインターネットから無料でダウンロードできます。インターネットの
オンラインドキュメントは、<http://manuals.ts.fujitsu.com> の「x86 Servers」
リンクをクリックすると入手できます。

ServerView サイトマップ

「ServerView Suite」にあるマニュアルの概要およびファイル構造については
ServerView Suite Sitemap を参照してください。

1. 左側の選択リストで「x86 Servers」、「Software」の順に選択します。
2. 右側で「ServerView Suite」を選択します。
2. 右側で「ServerView Suite」を選択します。

2) マニュアル名:sv-install-windows-jp.pdf (ServerView Operations Manager 8.40 インストールガイド)

ページ:9

誤

1.2.2 管理コンソール

:

- Java Runtime Environment(JRE)V1.8.0_121 以降

正

1.2.2 管理コンソール

:

- Java Runtime Environment(JRE)V1.8.0_121 以上



JRE 1.8.0_161 32 ビット、JRE 1.8.0_162 32 ビットおよび JRE 1.8.0_171 32 ビットには
WebView の問題があるため、Operations Manager では使用できません。

ページ:11

誤

Java Runtime Environment

- Java Runtime Environment(JRE)V1.8.0_131 以降



JRE 1.8.0_161 32 ビットおよび JRE 1.8.0_162 32 ビットには
WebView の問題があるため、Operations Manager では使用できません。

正

Java Runtime Environment

- Java Runtime Environment(JRE)V1.8.0_121 以降



JRE 1.8.0_161 32 ビット、JRE 1.8.0_162 32 ビットおよび JRE 1.8.0_171 32 ビットには
WebView の問題があるため、Operations Manager では使用できません。

誤

アップグレードインストールは、既存の Operations Manager バージョン 7.11.12 以上でのみサポートされています。
 バージョン 7.11.12 未満のすべての Operations Manager をあらかじめ
 バージョン 7.11.12 にアップグレードする必要があります。

正

アップグレードインストールは、既存の Operations Manager バージョン 7.11.12、7.20.10、8.00.03 以降からサポートされています。
 バージョン 7.11.12 未満のすべての Operations Manager をあらかじめ
 バージョン 7.11.12、7.20.10、8.00.03 以降にアップグレードする必要があります。

誤

No.	チェック項目	設定
1	サポートバージョン	Windows にサポートされる Web ブラウザは以下の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> 一般的な Web ブラウザ

正

No.	チェック項目	設定
1	サポートバージョン	Windows にサポートされる Web ブラウザは以下の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> OS がサポートする Internet Explorer Mozilla Firefox V16 以上。

誤

1	サポートバージョン	V1.8_131 以降 JRE はサーバ側(ServerView Operations Manager をインストールするサーバ)と、クライアント側 (ServerView OperationsManager にアクセスする端末) の両方にインストールされている必要があります。
---	-----------	--

正

1	サポートバージョン	V1.8.0.121 以降 JRE はサーバ側(ServerView Operations Manager をインストールするサーバ)と、クライアント側 (ServerView OperationsManager にアクセスする端末) の両方にインストールされている必要があります。
---	-----------	--

誤

1	アップデート元のバージョン	アップデートインストールは、バージョン 7.11.12 以降からのみ可能です。
---	---------------	---

正

1	アップデート元のバージョン	アップデートインストールは、バージョン 7.11.12、7.20.10、8.00.03 以降から可能です。
---	---------------	---

ページ:143

誤

- 最新バージョンへアップデートインストールは、Operations Manager バージョン 7.11.12 からのみサポートされています。

正

- 最新バージョンへアップデートインストールは、Operations Manager バージョン 7.11.12、7.20.10、8.00.03 以降からのみサポートされています。

3) マニュアル名:sv-install-linux-jp.pdf (ServerView Operations Manager 8.40 インストールガイド)

ページ:7

誤

- 1.2.2 管理コンソール
- :
- Java Runtime Environment (JRE) V1.8.131 以降

正

- 1.2.2 管理コンソール
- :
- Java Runtime Environment (JRE) V1.8.0_121 以上
-  JRE 1.8.0_161 32 ビット、JRE 1.8.0_162 32 ビットおよび JRE 1.8.0_171 32 ビットには WebView の問題があるため、Operations Manager では使用できません。

誤

1.2.3 中央管理用サーバ(CMS):

「ソフトウェア」

- SUSE(SLES 11):SP4
- SUSE(SLES 12):SP2 and SP3
- SUSE(SLES 15)
- Red Hat Enterprise Linux 6.9 / 6.10
- Red Hat Enterprise Linux 7.4 / 7.5

:

Java Runtime Environment

- Java Runtime Environment (JRE) V1.8.131 以降



JRE 1.8.0_161 32 ビットおよび JRE 1.8.0_162 32 ビットには
WebView の問題があるため、Operations Manager では使用できません。

正

1.2.3 中央管理用サーバ(CMS):

「ソフトウェア」

- SUSE(SLES 11):SP4
- SUSE(SLES 12):SP2 and SP3
- SUSE(SLES 15)
- Red Hat Enterprise Linux 6.7 (for x86 / for Intel64) / 6.9 (for Intel64) / 6.10 (for Intel64)
- Red Hat Enterprise Linux 7.3 / 7.4 / 7.5

※SUSE(SLES11,12,15)は日本市場では、サポート対象外です。

:

Java Runtime Environment

- Java Runtime Environment (JRE) V1.8.0_121 以降



JRE 1.8.0_161 32 ビット、JRE 1.8.0_162 32 ビットおよび JRE 1.8.0_171 32 ビットには
WebView の問題があるため、Operations Manager では使用できません。

誤

RHEL 6.9/RHEL 6.10 32 ビット:

:

- pcre
- perl-Digest-HMAC
- perl-IO-Socket-SSLnoarch
- perl-Net-SSLeay
- policycoreutils-python

正

RHEL 6.7 32 ビット:

- :
- pcre
- perl-Digest-HMAC
- perl-IO-Socket-SSL
- perl-Net-SSLeay
- policycoreutils-python

ページ:35

誤

RHEL 7.4/RHEL 7.5 64 ビット:

- :
- xz-libs.i686
- zlib.i686
- 特殊機能の前提条件

正

RHEL 7.3/RHEL 7.4/RHEL 7.5 64 ビット:

- :
- xz-libs.i686
- zlib.i686
- perl-Digest-HMAC
- unzip
- net-tools
- 特殊機能の前提条件

ページ:41

誤

3.5.2 管理コンソール

- :
- Java Runtime Environment V1.7.0_55 以上

正

3.5.2 管理コンソール

- :
- Java Runtime Environment V1.8.0_121 以上

ページ:41

誤

No.	チェック項目	設定
1	サポートバージョン	Windows にサポートされる Web ブラウザは以下の通りです。 ▪ 一般的な Web ブラウザ:

正

No.	チェック項目	設定
1	サポートバージョン	Windows にサポートされる Web ブラウザは以下の通りです。 ・ Internet Explorer V9 以上 ・ Mozilla Firefox V16 以上。 ：

ページ:42

誤

1	サポートバージョン	V1.8_131 以降 JRE はサーバ側(ServerView Operations Manager をインストールするサーバ)と、クライアント側(ServerView OperationsManager にアクセスする端末)の両方にインストールされている必要があります。
---	-----------	--

正

1	サポートバージョン	V1.8.0_121 以降 JRE はサーバ側(ServerView Operations Manager をインストールするサーバ)と、クライアント側(ServerView OperationsManager にアクセスする端末)の両方にインストールされている必要があります。
---	-----------	--

ページ:44

誤

1	アップデート元のバージョン	アップデートインストールは、バージョン 7.11.04 以降からのみ可能です。
---	---------------	---

正

1	アップデート元のバージョン	アップデートインストールは、バージョン 7.11.12、7.20.10、8.10.01 以上から可能です。
---	---------------	---

ページ:63

誤

・アップデートインストールは、Operations Manager バージョン 6.00.06 からのみサポートされています。 ：
--

正

・アップデートインストールは、Operations Manager バージョン 7.11.12、7.20.10、8.10.01 以上からのみサポートされています。 ：
--

誤

3.9 Operations Manager を運用する場合に使用可能なサービス
動作中の Operations Manager では、以下のサービスがご利用いただけます。
:
· /etc/init.d/srvmagt_scs
:

正

3.9 Operations Manager を運用する場合に使用可能なサービス
動作中の Operations Manager では、以下のサービスがご利用いただけます。
:
· /etc/init.d/srvmagt_scs (RHEL 6.x)
· /usr/lib/systemd/system/srvmagt_scs.service (RHEL 7.x)
:

誤

サービスの個別停止
以下のコマンドを使用すると、上記に順で ServerView サービスは停止します。
· <Service> stop
:

正

サービスの個別停止
以下のコマンドを、上記のリストの順で使用することで、ServerView のサービスを停止します。
· <Service> stop (RHEL7.x の srvmagt_scs 以外 及び RHEL6.x)
· systemctl stop srvmagt_scs (RHEL7.x の srvmagt_scs)
:

誤

サービスの個別起動
以下のコマンドを使用すると、上記に順で ServerView サービスは停止します。
<Service> start
サービスの起動は停止とは逆の順番で行います(上記リストを参照)。

正

サービスの個別起動
<Service> start (RHEL7.x の srvmagt_scs 以外 及び RHEL6.x)
systemctl start srvmagt_scs (RHEL7.x の srvmagt_scs)
サービスの起動は停止とは逆の順番で行います(上記リストを参照)

誤

4.9.7 Operations Manager の再起動

Linux システム動作中に Operations Manager を再起動することできます。次の手順に従います。

:

· /etc/init.d/srvmagt_scs:

:

正

4.9.7 Operations Manager の再起動

Linux システム動作中に Operations Manager を再起動することできます。次の手順に従います。

:

· サービス /etc/init.d/srvmagt_scs (RHEL 6.x)
/usr/lib/systemd/system/srvmagt_scs.service (RHEL 7.x):

:

4) マニュアル名:sv-event-mgr-jp.pdf (ServerView Operations Manager 8.50)

誤

- 「メール」を選択した場合、「件名」と「メッセージ」の文字セット

(charset) を以下の方法で設定します。

- Windows ベースの管理用サーバでは、「charset=Shift-JIS」
- Linux ベースの管理用サーバでは、「charset=UTF-8」

正

- 「メール」を選択した場合、「件名」と「メッセージ」の文字セット

(charset) を以下の方法で設定します。

- Windows ベースの管理用サーバでは、「charset=iso-2022-jp」(V7.20.08 以降では「charset=UTF-8」)
- Linux ベースの管理用サーバでは、「charset=UTF-8」

5) マニュアル名:sv-operations-mgr-jp.pdf (ServerView Operations Manager 8.50 取扱説明書)

誤

実行するには、Java Web Start プログラムに Oracle Java Runtime
Enterprise (JRE) バージョン 1.7 以降が必要です。

正

実行するには、Java Web Start プログラムに Oracle Java Runtime
Enterprise (JRE) V1.8.0_121 以降が必要です。

(9) ServerView Operations Manager による iRMC 監視を行なう際の留意

本DVDに収録されているServerView Operations ManagerではPRIMERGYシステムに搭載されたiRMC S4/iRMC S5を監視対象として登録することができます。

監視を行なうためにはServerView Operations Managerによる監視をサポートしたiRMC S4ファームウェアの適用が必要です。

iRMC S4の場合は、7.65F以降のファームウェア版数でサポートしています。

iRMC S5の場合は、すべてのファームウェア版数で対応しています。

(10) アップデートインストールする際の留意

- 1) 本DVDに格納されているバージョンのServerView Operations Manager for Windowsは、以下のバージョンからのみアップデートインストールを行うことができます。

V7.11.12/V7.20.10/V8.00.03/V8.10.01/V8.20.02/V8.21.00/V8.30.03/V8.30.04/V8.40.01/
V8.41.01/V8.50.02

本DVDに格納されているバージョンのServerView Operations Manager for Linuxは、以下のバージョンからのみアップデートインストールを行うことができます。

V7.11.12/V7.20.10/V8.00.03/V8.10.01/V8.20.02/V8.21.00/V8.30.03/V8.30.04/V8.40.01/
V8.41.01/V8.50.02

該当版数以外のバージョンからアップデートを行う場合は、以下のどちらかを実施してください。

- ・ インストールされているServerView Operations Managerを一度アンインストール後、本DVDに格納されているServerView Operations Managerをインストール
※アンインストール前にServerView Operations Managerの設定情報を控えてください。
新規でインストールを行ったあと、再度手動で設定を行っていただく必要があります。
 - ・ 一度アップデート可能な版数のServerView Operations Managerにアップデート後、本DVDに格納されているServerView Operations Managerにアップデートインストール
- 2) Windows環境の場合、インストールされているWindowsインストーラのバージョンがV4.0の場合、以前のバージョンのServerView Operations Managerから、本DVDに格納されているバージョンへアップデートインストールを行うことはできません。

インストールされているWindowsインストーラのバージョンは以下の方法で確認することができます。

1. 任意の方法でコマンドプロンプトを開きます。
2. 以下のように入力して、実行します。
> msieexec
3. 「Windowsインストーラ」というタイトルの画面が表示されます。1行目にバージョンが記載されています。

なお、下記OSでは、WindowsインストーラのバージョンV4.0がインストールされている可能性があります。

- ・Windows 2008 (R2なし) SP2未適用

上記以外の環境では、WindowsインストーラV4.0はインストールされません。

現在WindowsインストーラV4.0をお使いで、V4.5にアップデートする場合、Windows Updateなどを使ってアップデート行ってください。本DVDにはWindowsインストーラのアップデートモジュールは格納されていません。

Linux環境の場合、アップデート前に採取されていたServerViewデータベースのバックアップデータは、アップデート後は以下のフォルダに格納されます。

/var/fujitsu/ServerViewSuite/ServerViewDB/last_backup

- 3) ServerView Operations Manager for Windows のアップグレードインストールを行う前に、SQL Server の最大メモリ使用量のパラメータを 128MB 以上に変更してください。

本 DVD に収録されている ServerView Operations Manager for Windows は データベースとして SQL Server 2014 Express を同梱しています。

SQL Server 2014 は最大メモリ使用量のパラメータが 128MB 以上である必要があります。

アップグレード前の環境で SQL Server の最大メモリ使用量を 64MB に設定している場合は、アップグレードを行う前に以下の手順で 128MB 以上に値を変更してください。

1. 任意の方法でコマンドプロンプトを起動します。
2. 以下のフォルダに移動します。

<インストールディレクトリ>\ServerView\ServerViewServices\scripts\ServerView\Tools
※インストールディレクトリは、デフォルトでは以下になります。

32 ビット OS の場合:

C:\Program Files\Fujitsu\ServerView Suite

64 ビット OS の場合:

C:\Program Files (x86)\Fujitsu\ServerView Suite

3. 次のコマンドを実行します。

SVConfigSQLMaxMemSize.bat

※上記バッチを実行すると対話モードとなり、任意に値を指定できます。

(11) アップデートマネージャのリポジトリデータインポートのため、DVD をマウントする際の留意

RedHat Enterprise Linux において、ServerView Suite Update DVD のパスをリポジトリデータのインポート元として指定した際、適切なリード権限が設定されていないことにより、"インポート元のパス'xxxxx'がありません"とのエラーメッセージが表示されることがあります。

これは、"svuser"のリード権限が、DVD のマウントポイントおよびその上位のディレクトリについて設定されていないため発生します。

この場合、一旦 DVD のアンマウントを実施後、以下のいずれかのコマンドにより DVD のマウントを実施してください。

- mount -t iso9660 -o ro,users,uid=svuser (デバイス名) (マウントポイント)

コマンド例: mount -t iso9660 -o ro,users,uid=svuser /dev/dvd /mnt/dvd

- mount -t udf -o ro,mode=555,nodev (デバイス名) (マウントポイント)

コマンド例: mount -t udf -o ro,mode=555,nodev /dev/dvd /mnt/dvd

(12) Internet Explorer 10 の環境にて SVOM 画面が白く表示される

Internet Explorer 10 を使用すると ServerView Operation Manager の画面が白く表示される場合があります。

以下のような操作をした際に ServerView Operation Manager の画面が白く表示されます。

ServerView Operation Manager にログイン後、任意の画面を開きます。次に別の任意の画面を開きます。

二つ目に開いた画面を閉じると、一つ目に開いた画面が白い画面となります。

白くなった画面を最小化、最大化を行うことで画面表示は元に戻ります。

(13) アラーム設定の各画面が読み込み中のまま正常に表示されない

以下に該当する場合、アラーム設定の各画面へアクセスを行うと、画面が読み込み中のまま表示できない場合があります。

- Linux 環境にインストールされた Firefox をブラウザとして使用している、かつ
- jre1.7u40 以降もしくは jdk1.7u40 以降をプラグインとして使用している。

アラーム設定を行う場合は、以下のいずれかを行って設定してください。

- 一度、左の設定メニューから目的以外の項目を選択し、読み込んでいる最中に再度目的の項目を選択する。
- Windows 端末のブラウザからアラーム設定を行う。

(14) iRMC Web-IF で保存した設定を”サーバの設定”でインポートする際の留意

iRMC Web-IF の”設定の保存”で保存した設定に”ユーザ設定”が含まれていない場合、SVOM の”サーバの設定”より同設定をインポートすると、iRMC のユーザ設定がクリアされます。

iRMC Web-IF で保存する際に”ユーザ設定”が含まれる状態で保存した設定をインポートするか、SVOM の”サーバの設定”-”iRMC ユーザ管理”で iRMC のユーザを再作成してください。

(15) ServerView Operations Manager で使用する Java について

ServerView Operations Manager をご使用いただくためには Java が必要となります。

Java は以下のシステムにインストールしていただく必要があります。

- (1) ServerView Operations Manager がインストールされたシステム上
- (2) ブラウザを使用して ServerView Operations Manager の画面を開くシステム上

本 DVD には ServerView Operations Manager V8.51 が収録されています。

ServerView Operations Manager V8.00 以降は上記(2)の環境において、Java バージョン 8u161, 8u162, 8u171 は WebView 機能に問題があるため、ご使用いただけません。

ServerView Operations Manager V7.11 以降は上記(1)、(2)の環境において、Java バージョン 8 をご使用いただけます。

ServerView Operations Manager V7.02 以前の ServerView Operations Manager では上記(1)、(2) どちらの環境においても Java バージョン 8 をお使いいただくことはできません。

Java のバージョン 7 は公式サポート終了の案内が出ており、今後 Java の脆弱性等が発見された場合、修正がバージョン 8 のみに提供される場合がありますので SVOM をご使用する際にはご注意ください。

ServerView Operations Manager は Java を使用しますが、以下の方法でサーバの監視を行なうことで Java を使用しない監視が行なえます。

- Web ブラウザを使用した System Monitor を使用する。
ServerView Agents がインストールされた環境には System Monitor がインストールされています。
V7.01 以降の ServerView Agents では Web ブラウザを使用した System Monitor を使用していただけます。
- マネジメント コントローラ iRMC / MMB を使用する。
PRIMERGY/PRIMEQUEST は マネジメント コントローラを内蔵しています。
マネジメント コントローラの Web インターフェースからハードウェアの状態を確認することができます。
使用方法については、それぞれのマニュアルをご確認ください。

本 DVD には Java は同梱されておりません。別途、入手が必要となります。

(16) コンバージドファブリックスイッチの監視について

ServerView Operations Manager の監視対象としてコンバージドファブリックスイッチを登録することができます。

登録されたコンバージドファブリックスイッチはサーバリスト上に表示されますが、Fabric Manager がインストールされていない場合、リスト上のコンバージドファブリックスイッチをクリックしても詳細画面を開くことはできません。

Fabric Manager がインストールされていない環境でコンバージドファブリックスイッチを登録する場合は、サーバブラウザで手動でサーバタイプ ”Switch” を選択し、登録してください。

(17) Red Hat Enterprise Linux 6.6(RHEL6.6)以降で使用する際の留意

Red Hat Enterprise Linux 6.6(RHEL6.6)以降で、Firefox(バージョン 31 以降)を使用して

ServerView Operations Manager を起動させた場合、JAVA プラグインでクラッシュが発生し、

その後以下のメッセージが表示され ServerView Operations Manager が正常に起動できません。

「ServerView Operations Manager の起動に失敗しました」

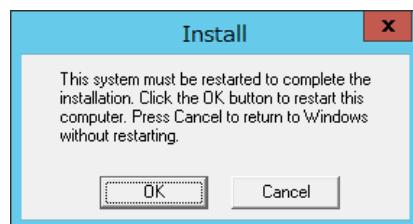
この場合、以下の手順を実施してください。

1. Firefox のツールバーより右端のメニューインボタンをクリックします。
2. 「設定」をクリックし「Firefox の設定」画面を開きます。
3. [セキュリティ]のパスワードの項目で「サイトのパスワードを保存する」のチェックを外し、「閉じる」ボタンを押します。
4. JAVA コントロールパネルを開きます。
5. [セキュリティ]タブで以下の設定を変更します。
 - JAVA 8 Update20 以降
例外サイト・リストにないアプリケーションのセキュリティ・レベル
「非常に高」から「高」に変更
 - JAVA 7
セキュリティ・レベル
「高(最小限の推奨)」から「中」に変更
6. 変更後、「適用」ボタン、「OK」ボタンを押します。

(18) ServerView Operations Manager for Windows V7.11.04 以降で変更インストールを行う際の留意

Windows OS 上で ServerView Operations Manager V7.11.04 以降の変更インストールを行うと、以下のポップアップが表示される場合があります。

このポップアップが表示された場合は、「Cancel」ボタンを押して変更インストールを継続してください。



(19) ServerView Operations Manager for Windows V7.10.10 以降でトラップのメール送信機能を使用する場合の留意

Windows OS 上で ServerView Operations Manager V7.10.10 以降のトラップのメール送信機能を使用するためには、以下の.NET Framework が必要です。

ServerView Operations Manager V7.10 /7.11 の場合 .Net Framework version 3.5 以降

ServerView Operations Manager V7.20 以降 の場合 .Net Framework version 4 以降

(20) Windows Server 2016 以降に ServerView Operations Manager をインストールする際の留意

本 DVD に収録されている ServerView Operations Manager を同梱の SQL Server 2014 Express を使用して Windows Server 2016 以降にインストールする場合には、事前に.NET Framework 3.5 のインストールが必要です。

(21) Windows Server 2008 R2 上に ServerView Operations Manager をインストールする際の留意

本 DVD に収録されている ServerView Operations Manager を Windows Server 2008 R2 上にインストールする場合は、事前に.NET Framework 4.x 及び、同じバージョンの.NET Framework 言語パックが必要です。

インターネットに接続されている環境であれば、ServerView Operations Manager インストール時に自動的にダウンロード、インストールが行われます。

インストール済みの SQL Server や、別のサーバの SQL Server にリモート接続する場合、.NET Framework 4.x は ServerView Operations Manager のインストールに必要ではありません。

(22) コマンドラインから ServerView Operations Manager for Windows をインストールした場合の留意

Windows 環境にコマンドラインを使用して ServerView Operations Manager for Windows のインストールを実施した際、インストール後に ServerView ApplicationService サービスが停止中のままとなってしまい、正常に使用することが

できない場合があります。

この場合、OSを再起動してServerView ApplicationServiceサービスが起動していることを確認してください。

※インストール処理自体は正常に終了していますので、再インストールは不要です。

(23) ServerView Operations Manager V8.00 以降を使用する際の留意

ServerView Operations Manager V8.00 以降を使用する場合、高さが 800px 以上となるディスプレイの解像度が必要です。

それ以下の解像度で表示すると画面が乱れる、またはボタンが押せない場合があります。

(24) アラーム設定で設定した対象サーバ表示に関する留意

ServerView Operations Manager V8.00 以降では、アラーム設定でアラームルールに指定したサーバを変更しても、画面上は変更されず、以前のサーバが残って表示される場合があります。

一度、アラーム設定を終了し、再度起動して確認してください。

(25) VMware (ServerView ESXi CIM Provider) が動作しているブレードサーバのエージェントレス登録に関する留意

ブレードサーバの Management Blade (以下 MMB) をサーバリストへ登録すると、自動的に配下のサーバブレードが登録されます。

VMware のサーバブレードで、ServerView ESXi CIM Provider (以下 SV-CIM) が動作していると、ServerView Operations Manager (以下、SVOM) は自動的に SV-CIM と通信し、OS の IP アドレスや iRMC の iRMC を取得します。

そのため、サーバブレードをエージェントレス (iRMC) で登録すると、既に存在するサーバと判断され登録ができません。

以下の手順で、対処願います。

- 1) SVOM の「ユーザー/パスワード」で、対象サーバブレードの VMware ログイン可能なユーザー/パスワードを削除 (または対象種別を VMware、すべてのタイプ以外にする) します。
- 2) MMB を登録します。(VMware のサーバブレードは監視不可サーバとして表示されます)
- 3) エージェントレス登録するサーバブレードの iRMC を登録 ('自動' で適用) します。

※1)で削除、または変更した VMware のユーザー/パスワード設定は、そのままにしてください。元に戻すと、MMB 配下の SV-CIM と通信を開始するため、2重監視となり誤動作の元になります。

(26) ServerView Operations Manager for Windows の変更インストールを行う場合の留意

Windows OS 上で管理サーバの基本設定を変更するために変更インストールを行う場合、SVOM のインストールで使用したインストールモジュール内のファイルが必要となる場合があります。SVOM のインストールモジュールをハードディスク上にコピーの上、変更インストールを実施してください。

(27) ServerView Operations Manager で登録サーバの iRMC 情報(IP アドレス等)が正しく表示されない場合があります。

対象サーバの ServerView Agents を再起動してください。

(28) 複数の Java が混在する環境での留意

Windows OS で Java8 よりも上位のメジャー・バージョンの Java (例えば、Java9 や Java10 など) が混在する環境に ServerView Operations Manager をインストールすることはできません。

(29) ApacheDS 管理ユーザのパスワード文字数について

Windows 環境で SVOM をサイレントインストールした場合、FUJITSU Software ServerView Application Server の変更インストールにて ApacheDS 管理者ユーザ「svuser」のパスワードの文字数を 7 文字以下で入力することができますが、8 文字以上を入力してください。

6.2 ServerView Agents の留意事項

Windows / Linux 環境共通

(1) ServerView Agents V8 以降で 32bit OS 対応の廃止

ServerView Agents V8 以降では 32bit OS 対応を廃止しました。32bit OS で監視を行う場合、V7.31 以前のバージョンのモジュールを使用して下さい。

ServerView Installation Manager を使用してインストールする場合は、自動的に適切なモジュールがインストールされます。

(2) ServerView Agents V8 以降に対応する ServerView Operations Manager のバージョン

ServerView Agents V8 以降のモジュールをインストールした監視対象サーバを監視する場合、ServerView Operations Manager V8.00 以降を使用して下さい。

ServerView Operations Manager V7.20 以前のバージョンを使用した監視は非サポートです。

(3) クローニング (SystemcastWizard 等) を行う際の留意

ServerView Agents / ServerView Agentless Service を専用ツール等でクローニングすることは可能です。
ただし、クローニング後に一部の機能が動作しない場合があります。以下の手順を実行してください。

1. ServerView Agents / ServerView Agentless Service を停止

2. Vmedb.DB を削除

Windows:

C:\Program Files\Fujitsu\ServerView Suite\Agents\Server Control\Data\vmeDb.db

Linux:

/etc/srvmagt/VME/var/db/Vmedb.DB

3. ServerView Agents / ServerView Agentless Service を起動

(4) ServerView System Monitor のステータス画面について留意

ServerView System Monitor のステータス画面において、[読み込み中] の表示のままになる場合があります。
ブラウザの [表示] → [最新の情報に更新] か、System Monitor を開きなおしてください。

Windows 環境

(1) System Monitor について

ServerView Agents V7.20 以降をインストールする場合、Web 版 System Monitor のみがインストールされます。
Java 版 System Monitor は削除されました。

System Monitor の起動はスタートメニュー (Windows Server 2008 / 2008 R2 / 2016 / 2019 の場合)、もしくはアプリ (Windows Server 2012 / 2012 R2 の場合) のリストから System Monitor を選択してください。

また、Web ブラウザを使用してリモートでアクセスが可能です。使用する場合は、Web ブラウザ上で以下の URL にアクセスしてください。

<https://<ServerView Agents がインストールされているサーバの URL>:3172/ssm>

SystemMonitor でサポートするブラウザは以下の通りです。

<デスクトップ>

- Internet Explorer 9(IE9)以降
- Microsoft Edge
- Google Chrome
- Mozilla Firefox

<タブレット/スマートフォン> (※V7.30 以降でのみサポート)

[Google Android の場合]

- Google Chrome(推奨)
- Mozilla Firefox
- 内蔵 Web ブラウザ(Android 5.0 以降)

[Apple iOS(8.0 以降)の場合]

- Safari
- Google Chrome

(2) System Configuration 機能についての留意

本機能を使用するには、別途 Java 実行環境のインストールが必要です。

※ 本機能での設定項目はリモートマネジメントコントローラ(iRMC)などでも設定可能なため、本機能は監視に必須ではありません。

また、本機能を使用しない場合は Java 実行環境のインストールは必要ありません。

以下の Java 実行環境をサポートします。

V8.51 以前: JRE 1.6, 1.7, 1.8

V9.00 以降: OpenJDK 8 ベースの Java 実行環境

V9.00 以降で推奨する Java 実行環境は Adopt OpenJDK 8 です。

Linux / VMware 環境

(1) OS アップデート時の留意

ServerView Agents は、OS のバージョンに依存します。OS / カーネルのアップデートを行う場合 (Red Hat Enterprise Linux 7.3 -> 7.4 の場合など) は、関連パッケージの再インストールが必要となります。

※ 修正カーネル(errata kernel)を適用する場合は、再インストールの必要はありません。

(2) インストールモジュールの選択

ServerView Agents V7.31 以前のモジュールは 32bit 版と 64bit 版が存在します。

インストールする OS、使用する ServerView Agents の版数によって使用するモジュールが異なります。

以下の表に従ってインストールしてください。

OS プラットフォーム	使用する ServerView Agents モジュール
Red Hat Enterprise Linux 6 (for x86)	32bit 版
Red Hat Enterprise Linux 6 (for Intel64)	64bit 版
Red Hat Enterprise Linux 7 (for Intel64)	64bit 版
SUSE Linux Enterprise Server 11 for AMD64 & Intel64	64bit 版
SUSE Linux Enterprise Server 12 for AMD64 & Intel64	64bit 版
SUSE Linux Enterprise Server 15 for AMD64 & Intel64	64bit 版
Citrix XenServer 6.5、7.1	64bit 版
Oracle Linux 6	64bit 版
Oracle Linux 7	
Oracle VM 3.3、3.4	64bit 版

ServerView Installation Manager を使ってインストールを行う場合は、自動的に適切なモジュールがインストールされます。

(3) ServerView Agents for Linux V7.00 以降 をインストールする際の留意

ServerView Agents V7.00 以降は V7.00 以前の ServerView Agents からはアップデートインストールすることができません。

すでに ServerView Agents がインストールされている環境にインストールする場合は、一旦アンインストール後、インストールを行なってください。

また、古い版数によって作成された /var/srvmagt/reports ディレクトリが残っている場合、ディレクトリを削除後、ServerView Agents のインストールを行なってください。

(4) Red Hat Enterprise Linux 6.5(RHEL 6.5) 上で使用する際の留意

ServerView Agents を RHEL6.5 上で使用する際に openssl-1.0.1e-16.el6_5.7.i686 以降のインストールが必要です。

なお、ServerView Agents のインストール後に openssl のアップデートを行った場合、openssl ライブラリへのリンクの再設定が必要となる場合があります。詳細については「ServerView Agents 補足情報」をご参照ください。

(5) System Monitor について

ServerView Agents V7.20 以降をインストールする場合、Web 版 System Monitor のみがインストールされます。

Java 版 System Monitor は削除されました。

System Monitor を使用する場合は、Web ブラウザ上で以下の URL にアクセスしてください。

<https://<ServerView Agents がインストールされているサーバの URL>:3172/ssm>

サポートするブラウザは ServerView Agents がインストールされた Linux システムが標準で使用可能なブラウザです。

また、リモート環境からのアクセスが可能です。

リモート環境からのアクセスでサポートするブラウザは以下の通りです。

<デスクトップ>

- Internet Explorer 9(IE9)以降
- Microsoft Edge
- Google Chrome
- Mozilla Firefox

<タブレット/スマートフォン> (※V7.30 以降でのみサポート)

[Google Android の場合]

- Google Chrome(推奨)
- 内蔵 Web ブラウザ(Android 5.0 以降)

[Apple iOS(8.0 以降)の場合]

- Safari
- Google Chrome

(6) マニュアルの正誤

ServerView Suite ServerBooks DVD に格納されている、以下のマニュアルの記載に誤りがあります。

1) マニュアル名:sv-install-linux-agent-jp.pdf (ServerView Agents 8.50 for Linux)

ページ:33

追加

- Citrix XenServer 6.5 の追加要件
ServerView Agents をインストールするには glibc, glibc-common のソフトウェアパッケージを以下のバージョンにアップデートする必要があります。
 - glibc-2-12-1.132
 - glibc-common-2-12-1.132

ページ:35

誤

3.2.2 ディレクトリからのインストール

ServerView エージェントのシェルアーカイブ `srvmagt.sh` と RPM パッケージを含む ZIP ファイルを Fujitsu の Web サーバがダウンロードできます。
(<http://support.ts.fujitsu.com/download/>)。

正

3.2.2 ディレクトリからのインストール

注意事項:

日本市場でお使いの場合は、下記 富士通のダウンロードサイトより、ServerView エージェントをダウンロードすることができます。

「FUJITSU Server PRIMERGY ダウンロード」

<http://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/downloads/>

「PRIMEQUEST > ダウンロード」

<http://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/download/>

ページ:44

誤

- 新しいハードウェア(リモートサービスポートなど)を取り付けたり、新しいストレージ拡張ユニットを追加しても、認識されない場合は、eecd (environment enclosure control daemon) の「再スキャン」の実行が必要になります。次のコマンドを使用して eecd を再起動します。

```
/etc/init.d/srvmagt stop  
/etc/init.d/eecd stop  
/etc/init.d/eecd rescan  
/etc/init.d/srvmagt start
```

正

- 新しいハードウェア(リモートサービスポートなど)を取り付けたり、新しいストレージ拡張ユニットを追加しても、認識されない場合は、ServerView Agents の再起動の実行が必要になります。次のコマンドを使用して ServerView Agents を再起動します。

```
# srvmagt restart
```

ページ:45

誤

3.5.9 インストール後のコンピュータ情報の変更

:

snmpd.conf ファイルを編集したら、snmp サービスと ServerViewLinux エージェントを次の手順で再起動します。

- 1.root としてログインします。
- 2.次のコマンドを実行します。

```
# /usr/sbin/srvmagt stop  
# /etc/init.d/snmpd stop  
# /etc/init.d/snmpd start  
# /usr/sbin/srvmagt start
```

正

3.5.9 インストール後のコンピュータ情報の変更

:

snmpd.conf ファイルを編集したら、snmp サービスと ServerViewLinux エージェントを次の手順で再起動します。

- 1.root としてログインします。
- 2.次のコマンドを実行します。

RHEL6, SLES11 の場合

```
# /usr/sbin/srvmagt stop  
# /etc/init.d/snmpd stop  
# /etc/init.d/snmpd start  
# /usr/sbin/srvmagt start
```

RHEL7, SLES12 以降の場合

```
# /usr/sbin/srvmagt stop  
# systemctl stop snmpd  
# systemctl start snmpd  
# /usr/sbin/srvmagt start
```

2) マニュアル名:sv-asm-overview-jp.pdf (ServerView Agentless Management)

ページ:24

誤

サービスの開始

以下のコマンドでサービスを開始します。

/usr/sbin/svas start

サービスの停止

以下のコマンドでサービスを停止します。

/usr/sbin/svas stop

正

サービスの開始

以下のコマンドでサービスを開始します。

/etc/init.d/svas start (RHEL6, SLES11)

systemctl start svas (RHEL7, SLES12 以降)

サービスの停止

以下のコマンドでサービスを停止します。

/etc/init.d/svas stop (RHEL6, SLES11)

/usr/sbin/svas stop (RHEL7, SLES12 以降)

6.3 ServerView Installation Manager (SVIM) の留意事項

(1) ServerView Operations Manager のインストール

SVIM でオペレーティングシステムをインストールする際に、ServerView Operations Manager(SVOM)をインストールすることができません。

ServerView Suite DVD2 に SVOM V8.51.00 を収録していますので、これを使用するかダウンロードサイトから入手してインストールしてください。

DVD2 からのインストール方法は、「6.1 ServerView Operations Manager の留意事項」の「(2) ServerView Operations Manager クイック導入ガイド」を参照してください。

(2) 複数のストレージが接続されている場合はインストールが正しく行えない場合があります。

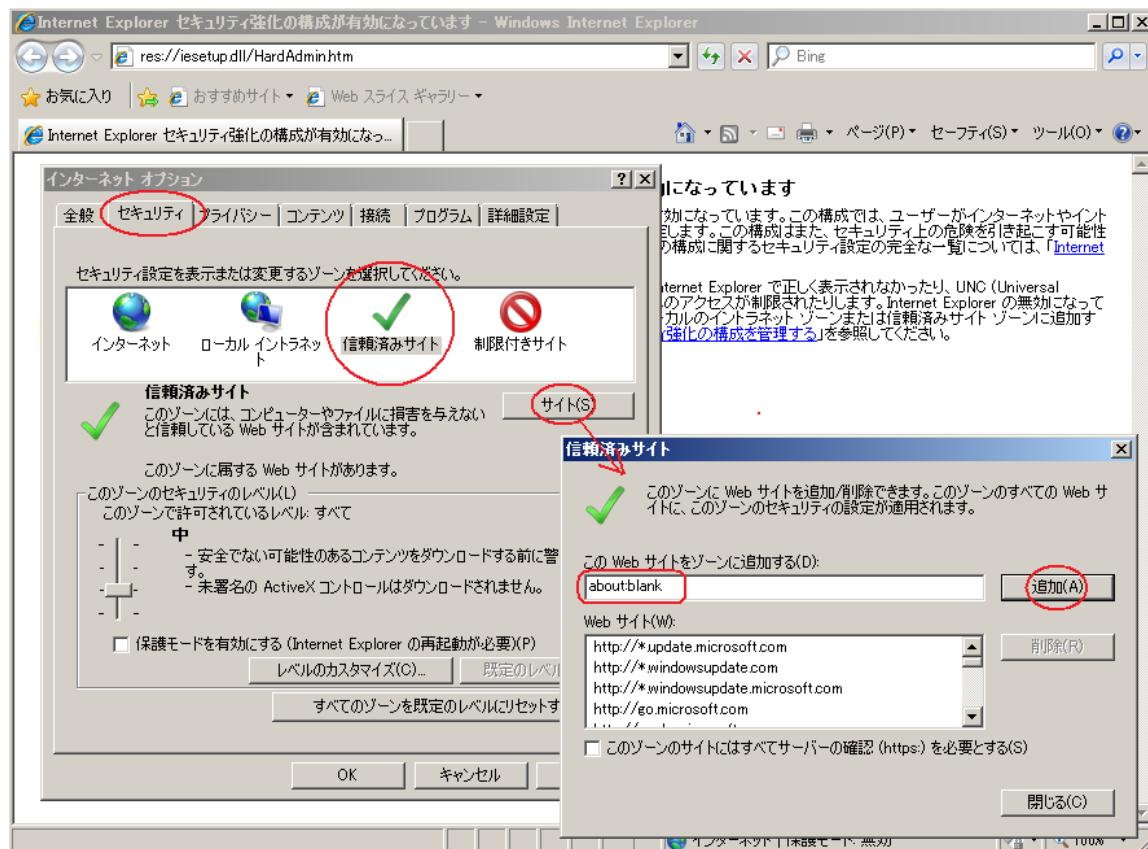
インストールターゲット以外のストレージを外すことでインストールを正しく行えます。

- SAN ブート環境を構築する場合は、ターゲット以外の LUN を外してください。
- SAN ブート環境を構築する場合は、内蔵ハードディスクを外してください。
- 複数の RAID グループが設定されている環境では、インストール時に1つの RAID グループが認識されるように設定してください。

(3) リモートインストールを行う場合において、「アプリケーションウィザード」画面の GUI 操作が行えなくなることがあります。

インターネットエクスプローラー(IE)のセキュリティ設定で問題を回避することができます。以下の操作を実施してください。

1. IE を起動します。
2. 「インターネットオプション」の「セキュリティ」タブを開きます。
3. 「信頼済みサイト」を選択し、「サイト」ボタンをクリックすると「サイト登録ダイアログ」が表示されます。
4. 「この Web サイトをゾーンに追加する(D):」のテキストボックスに[about:blank]と入力します。
5. 「このゾーンのサイトにはすべてサーバの確認(https:)を必要とする(S)」がチェックされている場合は外します。
6. 「追加」ボタンをクリックします。



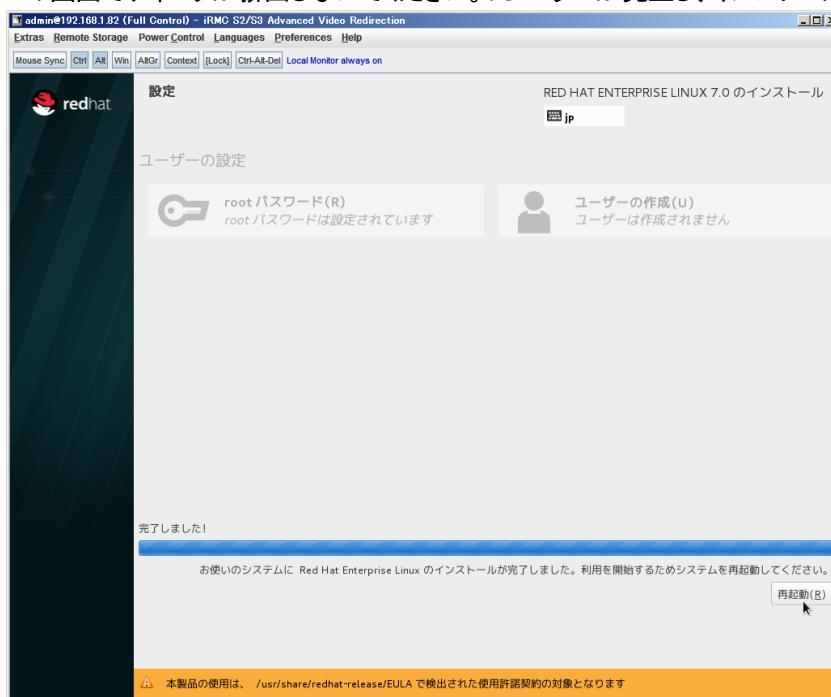
(4) Red Hat Enterprise Linux 6 / 7 をインストール時のディスク抜き取りについて

Red Hat Enterprise Linux6 をインストールする場合は、OS のインストールが完了すると下図の画面となりますが、この画面でディスクが排出されません。

ディスクを抜き取るには再起動ボタンをクリックし、画面が切り替わったところで DVD ドライブの Eject ボタンを押してディスクを抜き取ってください。



Red Hat Enterprise Linux7 をインストールする場合は、OS のインストールが完了すると下図の画面となりますが、この画面でディスクが排出しないでください。I/O エラーが発生し、インストールが正常に完了しません。



再起動ボタンをクリックし、再起動が開始されてから Fujitsu ロゴが表示されている間までに DVD ドライブの Eject ボタンを押してディスクを抜き取ってください。

(5) **Red Hat Enterprise Linux 6 インストールにおいて、インタラクティブモードを実施する場合の注意**

Red Hat Enterprise Linux 6 インストールにおいて、「基本設定」画面でインタラクティブモードにチェックした場合は注意が必要です。

Red Hat Enterprise Linux 6 のインストールを進めていくと、カスタムレイアウト設定画面となります。カスタムレイアウト設定画面表示直後に「リセット」ボタンをクリックしてください。

(6) **CX250 S2, CX270 S2 に IB HCA カードを搭載する場合は注意が必要です。**

CX250 S2, CX270 S2 に IB HCA カードを搭載し SVIM にて OS をインストールすると、途中のドライバ適用フェーズで処理がフリーズします。

OS インストール前に IB HCA カードを外し、OS インストール後 IB HCA カードを搭載してください。さらにドライバを手動で適用してください。

この留意事項は以下の IB HCA カードが該当します。

PY-HC301 IB HCA カード(56Gbps)

PYBHC301 IB HCA カード(56Gbps)

PY-HC302 Dual port IB HCA カード(56Gbps)

PYBHC302 Dual port IB HCA カード(56Gbps)

これら以外の IB HCA カードであれば問題なく OS インストールは行えます。

(7) **Red Hat Enterprise Linux をマルチパス構成でインストールする場合の注意**

Red Hat Enterprise Linux 5 または 6 でマルチパス構成かつ、内蔵ハードディスクが存在する場合は、「ブートローダ」画面において「ブートローダのインストール場所」項目に「ブートパーティションの最初のセクター」を選択してください。 「MBR」を選択すると OS 起動時にエラーが発生しインストールが正常に終了しません。また、内蔵ハードディスクがない場合であれば「MBR」を選択しても問題ありません。

また、Red Hat Enterprise Linux 7 についてはマルチパス構成でインストールが行えません。

シングルパスでインストールを実施した後、マルチパス構成の接続にしてください。

(8) **Red Hat Enterprise Linux 7 における UEFI Secure Boot は SVIM でサポートしていません**

BIOS 設定で UEFI Secure Boot を Enable に設定すると SVIM ではインストールすることができません。

必ず Disable に設定してからインストールを実施してください。なお、デフォルト状態では Disable に設定されています。

(9) **SUSE Linux Enterprise Server のサポート対象**

次の製品のみ SUSE Linux Enterprise Server をサポートします。それ以外の製品はインストール時に指定しないでください。

- ServerView Agents
- ServerView Agentless Service
- ServerView RAID Manager

(10) **4GB のメモリを搭載した機種に Red Hat Enterprise Linux 7 をインストールする場合**

4GB のメモリを搭載した機種に Red Hat Enterprise Linux 7 をインストールする場合は、「基本設定」ページで「テキストモード(グラフィカルモードが標準)」にチェックを付けてください。チェックを付けずにインストールを開始すると、インストールの途中で画面がフリーズする場合があります。

(11) **SUSE Linux Enterprise Server 12、15 をインストールする際に、LVM ボリュームは指定できません**

SUSE Linux Enterprise Server 12 または SUSE Linux Enterprise Server 15 をインストールする際、「RAID とディスクの構成」画面で LVM ボリュームグループの作成にチェックしてインストールを進める場合、インストールエラーとなります。

(12) **VMware ESXi をインストールする際のホスト名**

環境によっては、インストール後のホスト名表示でホスト名の後に”.”が表示される場合があります。このため、VMware ESXi をインストールする際にホスト名を指定する場合は、次の書式で入力することを推奨します。

<hostname>.<domain name>
例: hostname = MyComputer
Domain = my.domain.com
ホスト名 = MyComputer.my.domain.com

(13) グラフィックスカード搭載時に CSS LED が点滅する場合があります

次の機種とグラフィックスカードの組合せでは、SVIM 起動時に本体前面の CSS LED が点滅する場合があります。

機種 : RX1330 M2、TX1320 M2、TX1320 M2
グラフィックスカード : PY-VG301L、PYBVG301L

回避するためには、グラフィックスカードを外した状態で OS をインストールしてください。

なお、CSS LED が点滅している状態でも OS のインストールを続行できます。その場合、インストール終了後に、 BIOS メニューからグラフィックスカードが挿入されている PCI スロットを有効(enable)に設定してください。

(14) Red Hat Enterprise Linux 6 のインストールに長時間を要する場合があります

Red Hat Enterprise Linux 6 をインストールする際に次のパラメータ設定を行うと、インストールに 7 時間ほどかかる場合があります。

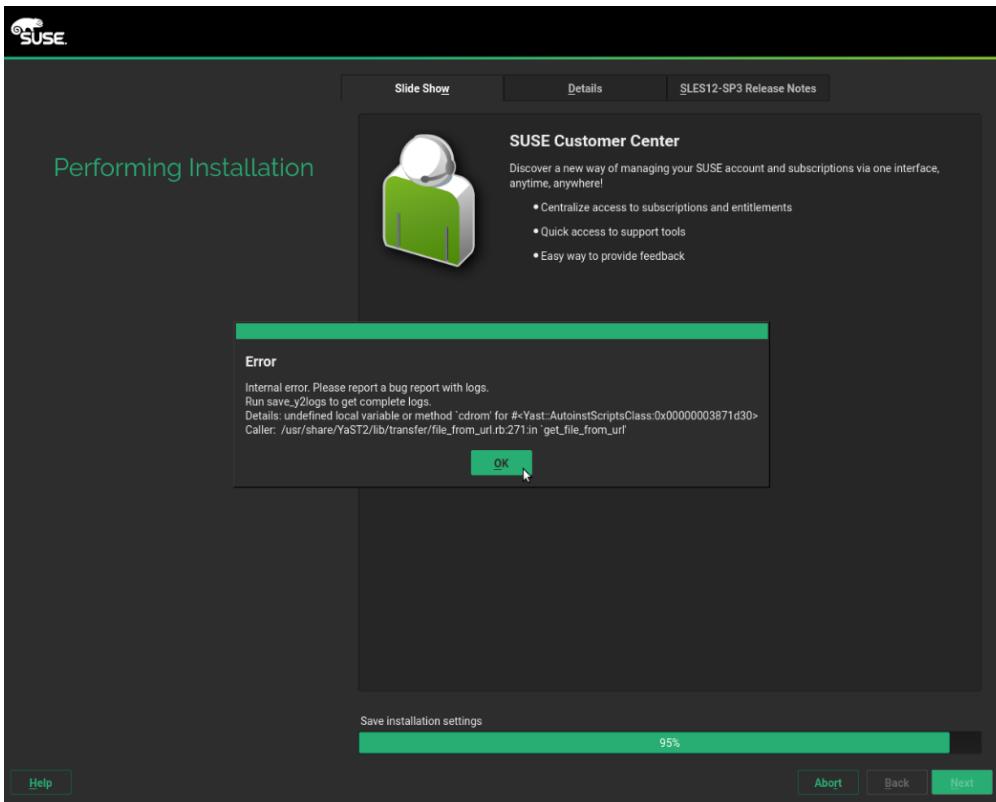
- RAID とディスクの構成ページ : 「ファイルシステムタイプ」に ext3 を選択する
 - 基本設定ページ : 「システムクロックで UTC を使用」のチェックを外す
- 「システムクロックで UTC を使用」のチェックを外さずにインストールを実行することで、この問題を回避できます。「システムクロックで UTC を使用」の設定は、インストール後に変更できます。

(15) Red Hat Enterprise Linux または SUSE Linux Enterprise Server はインストール完了直後に再起動しないでください

Red Hat Enterprise Linux または SUSE Linux Enterprise Server をインストールする場合、OS のインストール後に アプリケーションをインストールするために最大 30 分を必要とします。再起動すると、アプリケーションのインストールが中断される場合があります。

(16) SUSE Linux Enterprise Server 12 SP3 をインストールする際に、内部エラーが表示されることがあります

SUSE Linux Enterprise Server 12 SP3 をインストールする際に、下図のような内部エラーが表示されることがあります。このエラーは無視できますので、「OK」ボタンをクリックしてください。通常のインストールが終了します。



(17) Red Hat Enterprise Linux 6.7 をインストールする際に、誤ったドライバが適用されます

以下の機種とカードの組合せた構成にて Red Hat Enterprise Linux 6.7 をインストールすると、誤ったドライバが適用されます。

インストール完了後、「PRIMERGY ダウンロード検索ページ」よりドライバキットの最新版を入手して適用してください。

機種: BX2560 M1 / BX2560 M2 / BX2580 M1 / BX2580 M2
 CX2550 M1 / CX2550 M2 / CX2570 M1 / CX2570 M2
 RX1330 M1 / RX1330 M2 / RX2520 M1 / RX2530 M1 / RX2530 M2
 RX2540 M1 / RX2540 M2 / RX2560 M1 / RX2560 M2
 RX4770 M1 / RX4770 M2 / RX4770 M3
 TX1310 M1 / TX1320 M1 / TX1320 M2 / TX1330 M1 / TX1330 M2
 TX2540 M1 / TX2560 M1 / TX2560 M2
 カード: LAN カード: PY-LA3C2 / PY-LA3C4
 FC カード: PY-FC201 / PY-FC202 / PY-FC221 / PY-FC222 / PY-FC331 / PY-FC332 / PY-FCD12

PRIMERGY ダウンロード検索

<http://www.fmworld.net/cgi-bin/drviasearch/drviaindex.cgi>

※次の項目を選択し“検索開始”ボタンを押下してください。

- 製品名:[ご利用の機種を選択]
- 型名:[ご利用機種の型名を選択]
- OS:[Red Hat Enterprise Linux 6 (for x86)]または、[Red Hat Enterprise Linux 6 (for Intel64)]
- 添付ソフト／ドライバ名称:[ドライバキット(2.6.32-573.el6 版)]

(18) Red Hat Enterprise Linux 7 をインストールする際に、インタラクティブモードを指定しないでください

Red Hat Enterprise Linux 7 をインストールする際に、V12.18.02 から「基本設定」画面でインタラクティブモードにチェックできるようになりましたが、この機能は使用しないでください。

(19) Windows Server のデバイスマネージャーに警告マークの付いた「不明なデバイス」が表示される場合があります

環境により、インストールされた Windows Server のデバイスマネージャーに警告マークの付いた「不明なデバイス」が表示される場合があります。ただし、この表示による影響はありません。

詳細は『PRIMERGY RX2530 M4 / RX2540 M4 / RX2520 M4 / TX2550 M4 ご使用上の留意・注意事項』を参照してください。下記ページの該当モデル名を選択していただきますと参照できます。

<http://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/manual/>

(20) **SUSE Enterprise Linux Server 15 は Embedded MegaRAID 環境に対応していません**

Embedded MegaRAID 環境に SUSE Enterprise Linux Server15 のインストールを試みると、自動インストール実行直後にエラーとなります。

(21) **SVIM V12.18.10 でインストールされる ServerView RAID Manager 6.7.2 は、VMware ESXi サーバの監視をサポートしていません**

ServerView RAID Manager で VMware ESXi サーバの監視を行うためには、「PRIMERGY ダウンロード検索ページ」から他の版数を入手してインストールしてください。

PRIMERGY ダウンロード検索

<http://www.fmworld.net/cgi-bin/drviasearch/drviaindex.cgi>

※次の項目を選択し“検索開始”ボタンを押下してください。

- 製品名:[ご利用の機種を選択]
- 型名:[ご利用機種の型名を選択]
- OS:[ご利用のOSを選択]
- 添付ソフト/ドライバ名称:ServerView RAID Manager

(22) **Red Hat Enterprise Linux 6.10 のインストール対象機種について**

一部の機種では、OS の選択画面で Red Hat Enterprise Linux 6.10 が未サポートとして表示されます。

※サポート予定を示す(**)が表示されます。

実際にサポートしているかどうかを、下記ページの OS 対応一覧で確認してください。ここでサポート対象と記載されている機種は、SVIM でインストールしてご使用になります。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/software/primergy-os/>

(23) **Linux インストール時の swap パーティションサイズは 128GB 以下にしてください**

Linux インストール時の swap パーティションサイズは、128GB を超えて指定することができます。SVIM で指定する際に 128GB (131073MB) 以上を入力すると、インストールフェーズでパーティションの再設定を促されます。

(24) **Windows Server 2016 インストールする際にブルースクリーンエラーとなる場合があります**

Windows Server 2016 をインストールする際に、以下の構成の場合はブルースクリーンエラーとなる場合があります。FC カードを OS インストール前に外しインストール後に FC カードを搭載することで、この問題を回避できます。または SVIM V12.18.10 以前の版数をご使用ください。

- 問題が発生する構成:
- 1)オンボード LAN が 10GbE である
 - 2)FC カード LPE16000 を搭載している
 - 3)SVIM V13.19.01 を使用している

(25) **Windows インストール時のキーボードレイアウトの選択**

Windows 全般において、インストール時に英語キーボードが選択されます。OS インストール時に日本語キーボードを使用した場合、インストール後にキーボード配列が変わりますので、入力するパスワードに注意する必要があります。キーボード配列は OS インストール後に以下の手順で変更してください。

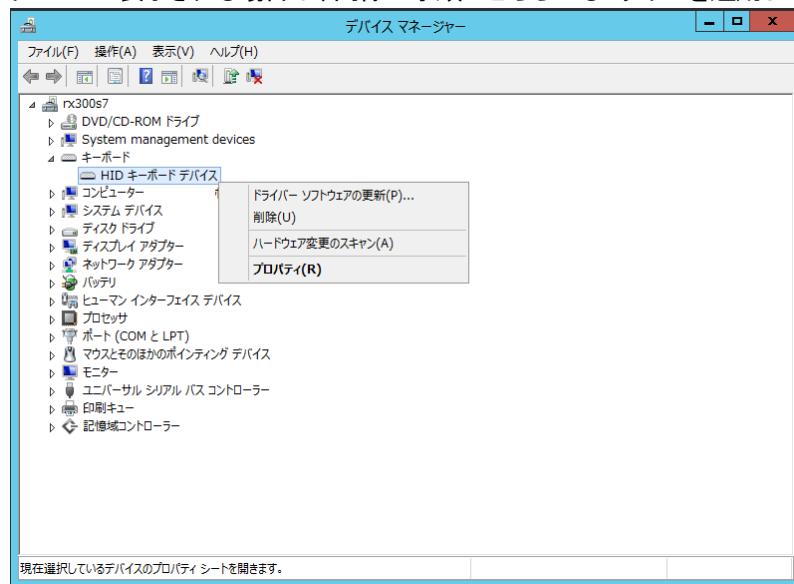
【Windows Server 2016 2019 の場合】

左下の Windows マーク > 設定(歯車マーク) > 時刻と言語 > 言語 > 「日本語」のオプション > ハードウェアキーボードレイアウトで変更できます。設定変更後はサインアウトまたは OS 再起動が必要です。

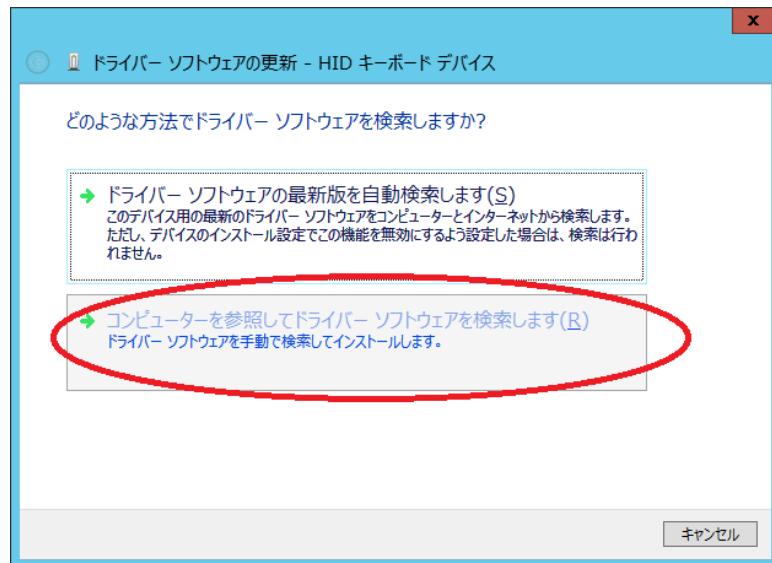
【Windows Server 2012 2012R2 の場合】

以下の手順でキーボードドライバを変更します。

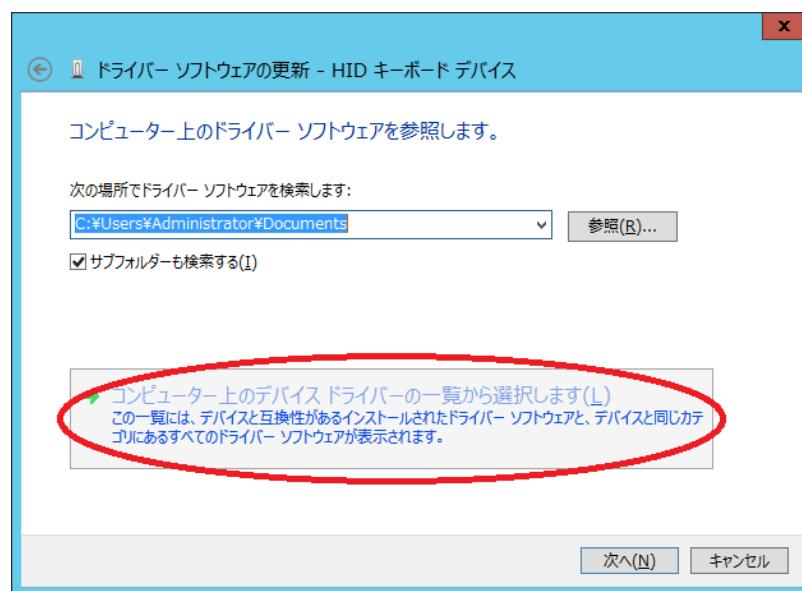
1. スタートメニュー > コントロールパネル > ハードウェア > デバイスマネージャー の順にクリックします。
2. デバイスマネージャーのキーボード配下に表示される「標準 PS/2 キーボード」または「HID キーボードデバイス」を右クリックし、「ドライバーソフトウェアの更新」をクリックします。
※キーボードデバイスが2つ表示される場合は、同様の手順でどちらにもドライバを適用してください。



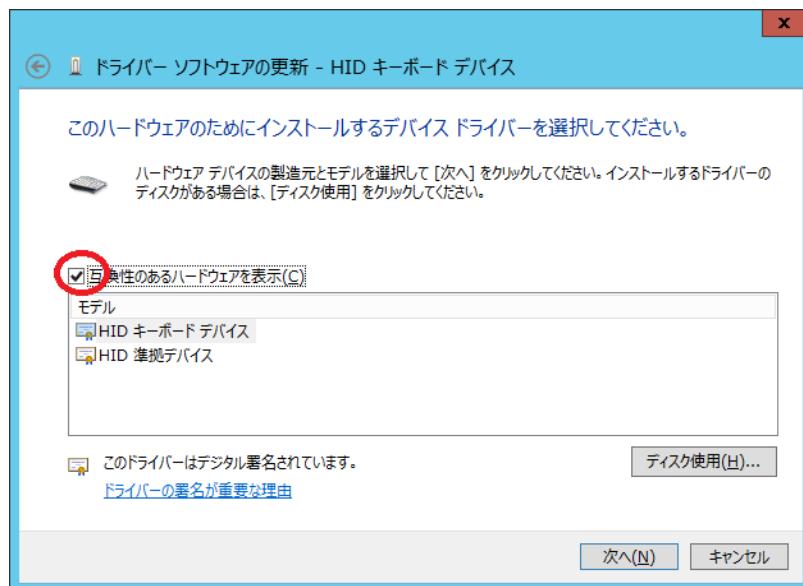
3. 「コンピューターを参照してドライバーソフトウェアを検索します」をクリックします。



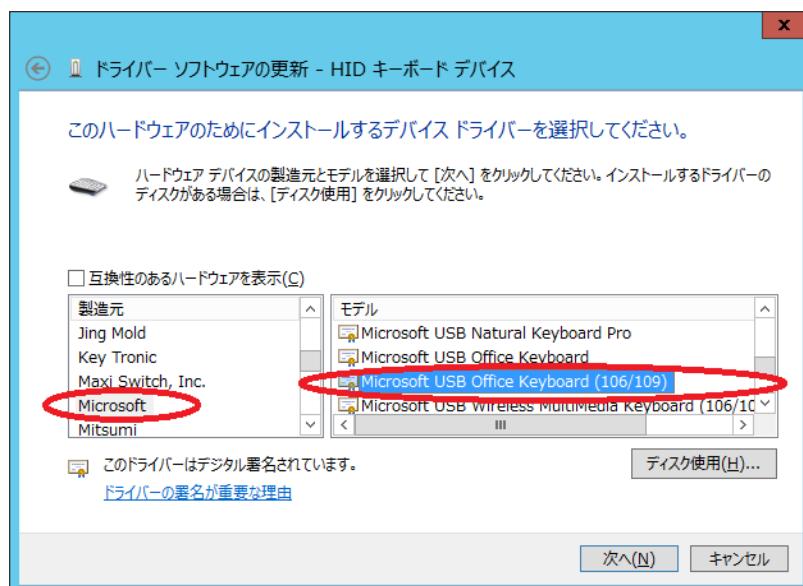
4. 「コンピューター上のデバイスドライバーの一覧から選択します」をクリックします。



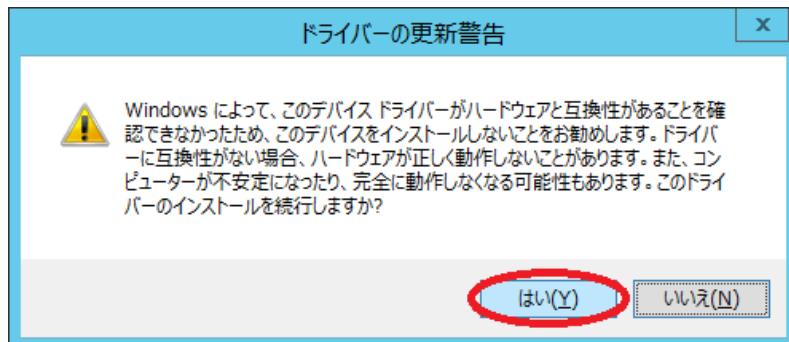
5. 「互換性のあるハードウェアを表示」のチェックを外します。



6. 製造元で「Microsoft」を、モデルで「Microsoft USB Office Keyboard (106/109)」を選択し、「次へ」をクリックします。



7. ドライバーの更新警告が表示されたら、「はい」をクリックします。



8. 「閉じる」をクリックした後、OS 再起動を行ってください。

なお、日本語キーボード配列と英語キーボード配列の違いは以下です。

【日本語キーボード】

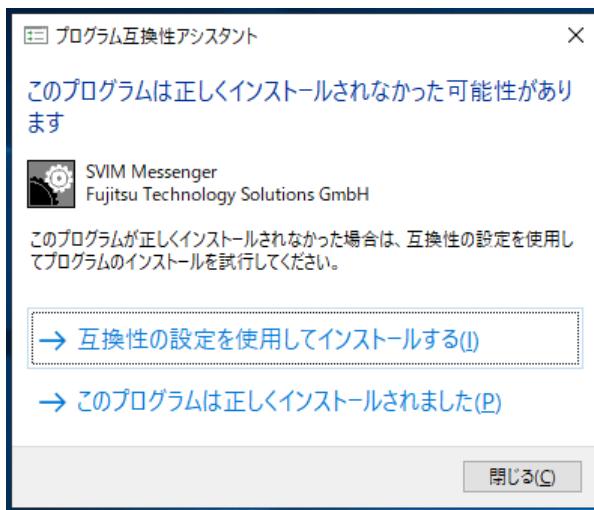
!	"	#	\$	%	&	'	()		=	~	
1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	-	^	¥
Q	W	E	R	T	Y	U	I	O	P	,	{	
A	S	D	F	G	H	J	K	L		*	}	
Z	X	C	V	B	N	M	<	>	?	-		
							,	.	/		¥	

【英語キーボード】

!	@	#	\$	%	^	&	*	()	-	+	
1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	-	=	
Q	W	E	R	T	Y	U	I	O	P	,	{	}
A	S	D	F	G	H	J	K	L		:	"	
Z	X	C	V	B	N	M	<	>	?	,	/	\
							,	.				

(26) Windows Server 2019 インストール後の最初のログインでダイアログが表示される場合があります

Windows Server 2019 をインストール完了後、最初のログインで下図のダイアログが表示されることがあります問題ありません。「閉じる」を選択してください。



(27) TX1310 M1 で既存の RAID 構成を使用しない場合、インストールが行えません

インストール時にはあらかじめ、Maintenance メニューまたは RAID 設定ユーティリティなどで RAID 構築を行ってください。

(28) 内蔵 DVD ドライブから SVIM を起動できない場合があります

次の条件を満たす場合、エラー表示され SVIM が起動しません。

[条件]

- 次のいずれかの PRIMERGY を使用する
TX1320 M4、TX1330 M4、RX1330 M4
- オンボード RAID 構成である
- 内蔵 DVD ドライブから SVIM を起動する

[エラー]

言語を選択した後、CentOS の起動メッセージが表示される段階で次のエラーが表示されます。

[FAILED]faild to start Switch Root

この場合は、以下のいずれかの方法で回避してください。

- A) 内蔵 DVD ドライブを使用せず、外付け DVD ドライブを使用する。
- B) iRMC のビデオリダイレクション機能により、リモートストレージから SVS DVD をバーチャルマウントして使用する。
- C) 他の版数の SVIM を使用する。

ただし以下は V13.19.01 でサポートされた OS です。以前の版数の SVIM ではインストールできません。

Windows Server 2019

Red Hat Enterprise Linux 7.6

SUSE Linux Enterprise Server 12 SP4

(29) RAID 構成が表示されない場合があります

V13.19.01 のガイドモードにおいて、RAID 構成の論理 DISK ではなく、物理(単体)DISK が表示されます。

以下のいずれかの方法で対処をお願いします。

- ・SVIM12.18.10 以前、または V13.19.04 以降を使用する。
- ・OS インストール対象以外の RAID カードを外して実行する。

(30) smbus ドライバについて

ServerView Installation Manager でインストールされる ServerView Agents は V8.xx ですが、smbus ドライバは V9.xx のためエラーが表示されます。

smbus_ioctl: WARNING: IOCTL_SMBUS_DRIVER_INFO: Version Code ...

以下のいずれかの手順で対処してください。

- 1) ServerView Agents を V9.xx にアップグレードする

モジュールは富士通ダウロードサイトから入手してください。

ServerView Agents のアップグレード手順については、インストールガイド(sv-install-linux-agent-jp.pdf)を参照してください。

- 2) smbush ドライバ V9.xx をアンインストールして V8.40.xx をインストールする

モジュールは ServerView Suite DVD2 か富士通ダウロードサイトから入手してください。

ServerView Suite DVD2 からのドライバのインストールモジュール場所

<DVD マウントポイント>/SVSLinux/RHDUP/RHELx/rhelx-ux/

例: srvmagt-modules-8.40.xx-*.iso

富士通ダウロードサイトからのドライバのインストールモジュール場所

/展開フォルダ/ServerView/Linux/RHDUP/RHELx/rhelx-ux/

例: srvmagt-modules-8.40.xx-*.iso

以下に smbush ドライバのアンインストール、インストール手順を示します。

[smbus 手動アンインストール手順]

V9.00.02 以前の smbush ドライバをアンインストールする手順:

以下の手順で smbush ドライバをアンインストールしてください。

<RHEL の場合>

以下のコマンドを実行し、ドライバパッケージをアンインストールします。

yum remove primergy-smbus

<SLES の場合>

以下のコマンドを実行し、ドライバパッケージをアンインストールします。

```
# zypper remove primergy-smbus
```

V9.00.02 以降の smbus ドライバをアンインストールする手順:

以下の手順で smbus ドライバをアンインストールしてください。

<RHEL の場合>

以下のコマンドを実行し、ドライバパッケージをアンインストールします。

```
# yum remove primergy-srvmagt
```

<SLES の場合>

以下のコマンドを実行し、ドライバパッケージをアンインストールします。

```
# zypper remove primergy-srvmagt
```

[smbus 手動インストール手順]

以下の手順で smbus ドライバをインストールしてください。

1) smbus ドライバのインストール実施前作業

予めインストールされている ServerView Agents for Linux を停止する必要はありません。ただし、smbus ドライバインストール後に ServerView Agents for Linux を再起動する必要があります。

ISO イメージをマウントします。

<作業ディレクトリを/tmp とし、マウントポイントを/mnt/img とした場合の実行例>

```
# mount -t iso9660 -o ro,loop /tmp/srvmagt-modules-x.xx.xx-x-xxx.iso /mnt/img
```

2) インストールの実施

<RHEL の場合>

a) リポジトリの設定

マウントしたイメージからリポジトリファイルをコピーし、書き込み権限を与えます。

```
# cp /mnt/img/dud.repo /etc/yum.repos.d/
```

```
# chmod +w /etc/yum.repos.d/dud.repo
```

baseurl 行の<INSERT_MOUNT_POINT_HERE>の部分と、gpgcheck 行を編集します。

以下に修正例を示します。

※ baseurl 行の<INSERT_MOUNT_POINT_HERE>より先の内容は ISO イメージによって異なります。

```
# vi /etc/yum.repos.d/dud.repo
```

[編集前]

```
baseurl=file:///<INSERT_MOUNT_POINT_HERE>/rpms/x86_64
```

```
gpgcheck=1
```

[編集後]

```
baseurl=file:///mnt/img/rpms/x86_64
```

```
gpgcheck=0
```

※ smbus ドライバのインストールモジュールには下記が格納されています。

・RedHat Enterprise Linux 6 / RedHat Enterprise Linux 7 の場合

kmod-srvmagt	x.xx.xx-x	XXXXXX
--------------	-----------	--------

primergy-srvmagt	x.xx.xx-x	XXXXXX
------------------	-----------	--------

primergy-dup	x.xx.xx-x	XXXXXX
--------------	-----------	--------

b) smbus ドライバのインストール

```
# yum install kmod-srvmagt
```

```
# yum install primergy-dup
```

c) 以下のコマンドにて、インストールを行った RPM パッケージのバージョンであることを確認してください。

```
# yum list kmod-srvmagt
```

```
# yum list primergy-srvmagt
```

```
# yum list primergy-dup
```

[実行例]

```
# yum list kmod-srvmagt
```

kmod-srvmagt	9.00.02-1	XXXXXX
--------------	-----------	--------

<SLES の場合>

a) リポジトリの登録

以下のコマンドで、マウントした ISO イメージをリポジトリとして登録します。

```
# zypper ar /mnt/img srvmagt
```

※ smbus ドライバのインストールモジュールには下記が格納されています。

primergy-srvmagt-kmod-xen-x.xx.xx-x.x86_64.rpm (SLES11 の場合のみ)

primergy-srvmagt-kmp-default-x.xx.xx-x.x86_64.rpm

primergy-srvmagt-x.xx.xx-x.x86_64.rpm

primergy-pldp-x.x-x.noarch.rpm

b) smbus ドライバのインストール

以下のコマンドを実行し、ドライバパッケージをインストールします。

依存するパッケージも同時にインストール/アンインストールされます。

```
# zypper install primergy-pldp
```

```
# zypper install primergy-srvmagt-kmp-default (*1)
```

```
# zypper install primergy-srvmagt-kmp-xen (SLES11 の場合のみ) (*1)
```

*1: primergy-srvmagt-kmp パッケージは動作環境、カーネルの種類によって異なります。

[実行例:xen カーネルがインストールされている場合]

```
# zypper install primergy-pldp
```

```
# zypper install primergy-srvmagt-kmp-xen (SLES11 の場合のみ)
```

c) 以下のコマンドにて、インストールを行ったパッケージのバージョンであることを確認してください。

```
# zypper info primergy-srvmat-kmp-default (*1)
```

```
# zypper info primergy-srvmagt-kmp-xen (SLES11 の場合のみ) (*1)
```

```
# zypper info primergy-srvmagt
```

```
# zypper info primergy-pldp
```

*1: 手順 2) <SLES の場合> 手順 b) でインストールしたパッケージについて確認してください。

[実行例]

```
# zypper info primergy-srvmagt
```

```
Loading repository data...
```

```
Reading installed packages...
```

Information for package primergy-srvmagt:

Repository: @System

Name: primergy-srvmagt

Version: 9.00.02-1

3) smbus ドライバのインストール完了後作業

<RHEL の場合>

a) リポジトリの設定

enabled の行を編集します。

```
# vi /etc/yum.repos.d/dud.repo
```

[編集前]

```
enabled=1
```

[編集後]

```
enabled=0
```

b) kmod プラグインの再無効化 ※手順 2) <RHEL の場合> 手順 a) で設定を変更し有効化した場合のみ 設定ファイル"/etc/yum/pluginconf.d/kmod.conf" の enabled 行を編集し、kmod プラグインの設定を元に戻します。

```
# vi /etc/yum/pluginconf.d/kmod.conf
```

[編集前]

enabled=1

[編集後]

enabled=0

<SLES の場合>

a) アンマウント前にリポジトリの削除をします。

※手順 2) <SLES の場合> 手順 a) で登録したリポジトリを削除します。

zypper rr srvmagt

4) 手順 1 でマウントした ISO イメージをアンマウントします。

umount /mnt/img

5) 不要になった ISO イメージを削除します。

rm /tmp/srvmagt-modules-*.iso

(31) PrimeCollect を使用できません

本 DVD では PrimeCollect を使用できません。V12.18.10 以前の ServerView Suite DVD または ServerView Update DVD をご使用ください。

(32) Windows インストール時に日本語を入力できません

Windows をインストールする際、「組織名」や「名前」などの設定項目に日本語を入力できません。英語で入力してインストールした後に、OS 上で該当の設定を変更してください。

6.4 ServerView Virtual-IO Manager(VIOM)の留意事項

(1) ライセンスおよび製品サポート

- ・Virtual-IO Managerをご使用になるにはライセンス購入が必要です。管理対象のサーバ数のライセンスを用意してください。
- ・Virtual-IO Manager では有償サポートメニューをご用意しています。万が一のトラブル対応等につきましては、SupportDesk 契約が必要となります。ライセンス購入されても、本製品に対するサポート契約を締結されていない場合は、QA 対応やトラブル対応を実施することができません(有償サポート契約がある場合のみ対応可能)。本製品はその性格上、システム構築時より利用するケースが多いため、システム構築時よりサポート契約を締結頂くことを推奨いたします。

(2) ServerView Virtual-IO Manager V3.8 のサポート状況

- ・コンバージドスイッチブレード (10Gbps 18/6+6) [VDX 2730]に接続しているコントローラにて FCoE を使用することはできません。
- ・管理対象サーバとして以下の機種は対象外となります。サポートする予定はありません。
PRIMERGY RX1330 M3、RX2520 M4、RX2530 M4、RX2540 M4、RX4770 M4、及び以降の機種
- ・管理サーバの動作環境として Windows Server 2016、及び以降の OS は対象外となります。サポートする予定はありません。

(3) 留意事項について

Virtual-IO Manager の補足情報とリリースノートに、その他の制限、留意事項が記載されておりますので、ご使用になる前にそちらをご確認ください。

6.5 ServerView ESXi CIM Provider の留意事項

(1) /var/log/vmkernel.log に「WARNING:LinuxThread: ~」メッセージが 出力される場合があります

ホスト OS や sfcbd サービスの起動時に /var/log/vmkernel.log に下記メッセージが
出力される場合がありますが、監視に影響はありません。本メッセージは無視してください。

WARNING: LinuxThread: xxx: sfcb-svs_pgyeec: Error cloning thread: -1 (bad0117)

6.6 ServerView RAID Manager の留意事項

(1) JRE のサポートバージョン

- JRE (Java Runtime Environment) 7 を使用する場合は update6 以降、JRE8 を使用する場合は update20 以降をご使用ください。
- JRE 6 と JRE 7、または JRE 5 と JRE 7 が混在する環境のブラウザからは接続することはできません(未サポート)。

Windows の場合:

ServerView RAID Manager にブラウザ接続する環境で JRE が混在している場合は、一方をアンインストールしてください。

なお、ServerView RAID Manager にブラウザ接続する環境で ServerView Operations Manager も動作している場合は、6.1 ServerView Operations Manager の留意事項も合わせてご確認ください。

Linux の場合:

JRE の混在が避けられない場合は、別途監視端末を用意して RAID 監視を行ってください。

(2) Linux で必要なパッケージ

ServerView RAID Manager の動作のためには、以下のパッケージが必要です。

cyrus-sasl, glibc, libstdc++, pam

(3) SanDisk 製の PCIe SSD を監視する場合

SanDisk(旧 Fusion-io)製の一部の PCIe SSD (型名が PY*SD**PA2、MC-5JSD11、MC-5JSD21)の監視を行うには、以下の環境が必要です。

- フームウェア版数:
「PCIe SSD firmware 7.1.13」以降
- Windows の場合:
「PCIe SSD Windows Driver 3.2.3」以降
- Red Hat Enterprise Linux の場合:
「PCIe SSD RHDUP driver package iomemory-vsl 3.2.3」以降 および
「PCIe-SSD ioDrive2 Linux Utilities 3.2.3」以降
※ただし、Linux Multiple Devices(LMD)環境は未サポートです。

(4) アップデートする場合

ServerView RAID Manager をアップデートする場合は、現在ご使用になっているアレイコントローラのファームウェアも最新にアップデートすることを推奨します。

(5) ServerView Agents と同時に使用する場合

ServerView Agents と同時に使用する場合は、ServerView Agents v6.20.08 (Linux)以降、v6.20.04 (Windows)以降の使用を推奨します。これより前の版数を使用する場合、まれに Segmentation fault が発生したり ServerView RAID Manager が検出したイベントが SEL に反映されない場合があります。その場合、ServerView RAID Manager が検出したイベントについては OS のイベントログまたは ServerView RAID Manager で確認してください。

(6) インストール後の WEB ブラウザのキャッシュクリア/Java キャッシュクリア

ServerView RAID Manager をアップデートまたは新規インストール後、ServerView RAID Manager の画面を起動する前に必ず WEB ブラウザのキャッシュデータと Java のキャッシュデータ(一時ファイル)を消去してください。また、新しい証明書を入れる前に古い証明書を削除してください。

詳細は補足情報をご参照ください。

(7) アレイ構成の管理

アレイ構成を使用する場合は、ServerView RAID Manager をインストールしアレイの監視を行ってください。新規インストール、アップデートインストール後のサーバの再起動は不要です。

(8) 再インストールまたはアップデート後のイベント重複

ServerView RAID Manager の再インストールやアップデートを行った場合、過去のイベントが重複して出力されることがあります。重複して出力されたイベントは無視してください。

(9) ESXi ホストを多数(数十台以上)登録する場合

ServerView RAID Manager に ESXi ホストを多数(数十台以上)登録するとサービス起動後の初期化に時間がかかる(数時間以上)場合があります。

よって、サービス起動後は十分時間をおいてからログインするか複数の ServerView RAID Manager にて ESXi ホストの台数を適宜分割することを推奨します。

(10) ServerView RAID Manager(GUI)の再表示

ServerView RAID Manager を再表示する場合は、表示していたブラウザのウィンドウを一旦閉じてから、再度ブラウザを開いて表示するようにしてください。

再表示するまでの間隔が短いと、メッセージが表示されてログイン画面が表示されない場合があります。その場合は、ウィンドウを一旦閉じ、しばらく待ってから再度表示するようにしてください。

(11) Windows で LDAP を使用している場合

稀にログインができなくなる場合があります。2~3 分程度時間を置くか、ServerView RAID Manager 上の LDAP 設定を解除してから再度接続してください。

(12) ID 10078 のイベントの重要度表示

ServerView RAID Manager が通知する SNMP トランプメッセージの重要度(Severity)について、GUI のイベントウィンドウに表示されるメッセージの重要度より低い値で表示されます。以下のように読み替えて頂くようお願いいたします。

ID 10078: SNMP トランプ(マニュアル記載値)の重要度:

読み替え前: Minor → 読み替え後: Major

対象のメッセージの例:

ID 10078 FTS RAID Ctrl SAS 6G 0/1 (D2607) (1): Logical drive 0 degraded

(13) ServerView RAID Manager V6.8.0 における VMware ESXi ホスト監視の非サポート

SVS DVD V13.19.01 に添付の ServerView RAID Manager V6.8.0 は、VMware ESXi ホストの監視をサポートしておりません。

VMware ESXi ホストを監視する場合は、富士通ダウンロードサイトより VMware ESXi ホストの監視をサポートした ServerView RAID Manager をダウンロードしてください。

(14) SUSE Enterprise Linux Server 15において、ServerView RAID Manager をアンインストールする際の注意

SUSE Enterprise Linux Server 15において ServerView RAID Manager をアンインストールする際に、/etc/snmp/snmpd.conf ファイルが空白になります。ServerView RAID Manager をアンインストールする前にバックアップをしてください。また、ServerView RAID Manager はインストール時にバックアップファイルを作成しますので、バックアップファイルから復元できます。

バックアップファイル:/etc/snmp/snmpd.conf.bak

(15) シングルサインオンとロールベースのアクセス制御の制限

ServerView RAID Manager V6.4.11~V6.8.0において、シングルサインオンを有効にしないでください。以下の不具合があります。

- V6.4.11~V6.6.5
シングルサインオンを有効にすると、「編集禁止モード」を「編集モード」に変更できません。
- V6.6.10~V6.8.0
シングルサインオンを有効にすると、その後ログインができなくなります。シングルサインオンを有効にしてブラ

ウザを閉じたあとは、再インストールが必要になります。

(16) ESXi サーバに搭載された NVMe デバイスの容量情報の表示について

ESXi サーバに搭載された NVMe デバイスを ServerView RAID Manager で表示する際に、容量の値が誤って表示される場合があります。正しい値は、ESXi サーバ上のターミナルで次のコマンドを入力することにより確認できます。

```
esxcli storage core device list | grep -i name -A 2
```

(17) ESXi サーバに搭載された NVMe デバイスの「書き込みデータの総量」の表示について

ESXi サーバに搭載された NVMe デバイスを ServerView RAID Manager で表示する際に、「書き込みデータの総量」の単位が PB と表示される場合があります。正しくは TB です。

例: 誤: 1383.8 (PB)

正: 1382.8 (TB)

(18) Windows 環境で ServerView RAID Manager V6.7.2 をアンインストールする際の注意

Windows 環境で ServerView RAID Manager V6.7.2 をアンインストールした場合、SNMP サービスが停止する問題があります。アンインストール後に、手動で Windows のサービス一覧から SNMP サービスを開始してください。

(19) ServerView RAID Manager V6.5.1 以降において、ホスト名変更後に証明書エラーが発生します

この問題は Windows 版でのみ発生します。ホスト名を変更した後は以下のいずれかの手順で証明書を再設定してください。

- ServerView RAID Manager の再インストール

ServerView RAID Manager をアンインストールし、再度インストールしてください。

- 内部ファイルの変更

内部ファイル amDPatch.ini を変更することで、ServerView RAID Manager をアンインストールすることなく証明書を再設定できます。

C:\Program Files\Fujitsu\ServerView Suite\RAID Manager\bin の amDPatch.ini をエディタで開き "SslKey" "SslCA" の行を削除します。ファイルを変更した後、ServerView RAID Manager を再起動してください。

例) SslKey = "----BEGIN ENCRPTED PRIVATE KEY---- xxxxxxxxxxxx-----"

SslCA = "----BEGIN CERTIFICATE---- xxxxxxxxxxxx-----"

6.7 ServerView Update Agent の留意事項

(1) Windows Small Business Server 2011 Essentials でのアップデート管理について

Windows Small Business Server 2011 をインストールしたサーバに対し、Update Manager を使用してアップデート管理を行う場合は、後述の方法により Update Agent をインストールしてください。

※Update Agent が SVIM により既にサーバにインストールされている場合、Update Agent の再インストールを行い、インストーラ上で設定し直す必要があります。アンインストールは、Windows のコントロールパネルの「プログラムのアンインストール」から Update Agent を選択して実施してください。

1. Update Agent のインストーラを実行してください。

「取扱説明書 ServerView Update Management」の「4.1 管理対象サーバへのインストール」に記載されている「Windows でのインストール」の項を参照し、次項の画面が出るまでインストール作業を進めてください。

取扱説明書については、以下の URL からご参照ください。

<http://manuals.ts.fujitsu.com/>

“Software”→“ServerView Suite”→“Update Management”の順に選択し、”タイトル: ServerView Update Management、サブタイトル: ServerView Operations Manager x.xx”を選択してください。(x.xx は Operations Manager のその時点における最新の版数を示します)

2. インストーラの「ServerView アップデートセキュリティ設定」画面で、以下のように入力してください。

- ・「アカウントチェック」欄のチェックボックスを選択状態にしてください。
- ・「アップデート用ユーザグループ」欄に「Administrators」と入力してください。



3. インストール作業の再開

取扱説明書に従って、インストール作業を再開し、インストールを完了させてください。

この後、Update Manager 上で当該サーバのアップデート管理を行う際に、サーバの「管理者」のアカウントを使用して Update Manager 上で「ログオン」作業を行ってください。「ログオン」作業についての詳細は、「取扱説明書 ServerView Update Management」の「7.1.3 サーバへのログオン」をご参照ください。

6.8 ServerView Storage Manager についての留意事項

(1) ETERNUS DX / DX S2 を監視する場合

ETERNUS DX / DX S2 を監視する場合、ServerView Storage Manager V5.0.0.7 以降をご使用ください。

(2) ETERNUS DX S3 / S4 / AF を監視する場合

ETERNUS DX S3 を監視する場合、ServerView Storage Manager V5.0.1.0 以降をご使用ください。

ETERNUS DX S4 / AF を監視する場合、ServerView Storage Manager V8.0.0.0 以降をご使用ください

また、ETERNUS DX S3 / S4 / AF 用ファームウェア V10L70 の適用が必要です。

各ファームウェアについては、以下のページにてご確認ください。

<http://storage-system.fujitsu.com/jp/download/#firmware>

6.9 ServerView Status Monitor の留意事項

(1) Fujitsu Software ServerView Status アプリケーションのサポートについて

本ソフトウェアにつきましては現在未サポートとなっておりますのでご了承ください。

6.10 リモートマネジメントコントローラ(iRMC)の留意事項

(1) ビデオリダイレクション、およびリモートストレージ使用時のブラウザ設定

iRMC WebUI より ビデオリダイレクション、およびリモートストレージ機能を使用する場合は、プロキシ経由で接続することができません。ブラウザの設定で、iRMC WebUI への接続はプロキシを使用しないように設定してください。

(2) サーバブレードにおけるビデオリダイレクション、およびリモートストレージについて

BX900/BX400 ブレードサーバに搭載されるサーバブレードにおいては、リモートマネジメントコントローラアップグレードオプションによるライセンスキーがなくても、iRMC WebUI より ビデオリダイレクション、およびリモートストレージ機能を使用することができます。

6.11 PrimeCollect の留意事項

(1) PrimeCollect が実行可能な環境について

本ソフトウェアを既存の OS 上から実行する(オンラインモード)ためには、Windows OS もしくは、ServerView Agents がインストールされた Linux OS 上である必要があります。

ServerView Agents がインストールされていない Linux OS や VMware ESXi サーバ等の ServerView Agents がインストールできない OS 上では本ソフトウェアを実行することはできません。

ServerView Suite DVD から起動し Maintenance Mode から実行する、または ServerView Update DVD から起動しメンテナンスからデータ収集を実行すること(オフラインモード)が可能です。

※ Agents がインストールされていない Windows OS、オフラインモードでは、取得できる情報に制限があります。

また、embedded Lifecycle Management(eLCM)機能を使用することにより、iRMC から手動または定期的に PrimeCollect 情報の取得、および取得したアーカイブの履歴管理(最大 7 件)を行えます。

※ eLCM 機能を使用するためには、有償のライフサイクルマネジメントライセンスとモジュールの適用が必要です。

eLCM の PrimeCollect 機能を使用するためには対象の OS に ServerView Agents または ServerView Agentless Service のインストールが必要です。

6.12 Scripting Toolkit の留意事項

(1) 本ソフトウェアのサポートについて

本ソフトウェアにつきましては現在未サポートとなっておりますのでご了承ください。

6.13 定期交換部品、消耗品の交換予告／交換時期通知を行う方法の留意事項

(1) Windows Server 2012(R2を含む) / Windows Server 2016 を使用する場合

交換予告／交換時期通知を行う方法は、Windows Server 2008 R2 / Windows Server 2008 での方法と同じになります。

マニュアルの「1 Windows Server 2008 R2 / Windows Server 2008 での設定例」にしたがって設定してください。

6.14 Java に関する留意事項

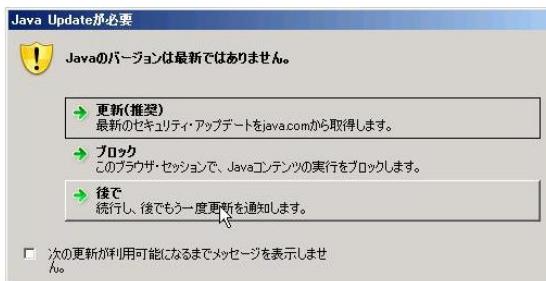
(1) SVOM に必要な Java コントロール・パネルの設定

以下のドキュメントに SVOM に必要な Java に関する設定、確認が記載されています。
必要な設定についてご確認ください。

「ServerView Operations Manager のインストールガイド(Windows 版/Linux 版)
インストールチェックリスト - Java Runtime Environment(JRE)

(2) 「Java Update が必要」というメッセージ(「Java のバージョンが最新ではありません。」または「お使いの Java バージョンは安全ではありません。」)の対処について

Java 7 Update 10 (7u10) 以降や Java 8 には、使用している Java のバージョンが最新ではないか、または既知のセキュリティ脆弱性がある場合に、掲記のメッセージが表示されます(下図を参照)。



インターネットに接続された環境でお使いの場合は「更新(推奨)」を選択してアップデートを実施してください。
なお、環境内に SVOM がインストールされている場合は、Java アップデートの実施前に、本書 6.1(6)項"JRE をアップデート、アンインストールする際の留意" を併せて参照願います。

インターネットに接続されていない環境でお使いの場合は、「後で」を選択してください。

SVIM をご使用の際に「OS 選択」画面において、「サーバ管理の設定を行う」をチェックしたときにこのメッセージが表示されることがあります。SVIM 操作中は Java コントロール・パネルを表示できませんので、「サーバ管理の設定を行う」のチェックを外してインストールを進めてください。

(3) Java7U25 以降で、SVOM・SVRAID 画面が表示されない場合の対処について

Java 7 U25(7u25) 以降のバージョンをお使いの場合、Java Applet(SVOM、SVRAID など)の画面が正しく表示されないことがあります。以下の対処を行うことで Java Applet を実行することができます。

以下のいずれかの対処を行ってください。

対処 1)

SVOM・SVRAID がサポートしている Java の最新版にアップデートしてください。

なお、環境内に SVOM がインストールされている場合は、Java アップデートの実施前に、本書 6.1(6)項"JRE をアップデート、アンインストールする際の留意" を併せて参照願います。

対処 2)

Java 8 での画面を元に説明します。ご使用の Java バージョンに適宜読み替えて下さい。

画面は Java のバージョンにより変更される場合があります。

1. Java コントロール・パネルを開きます。

- ・Windows の場合

- 1) Windows のコントロール・パネルを開きます。
- 2) 表示されたアイコンの中から Java をダブルクリックします。

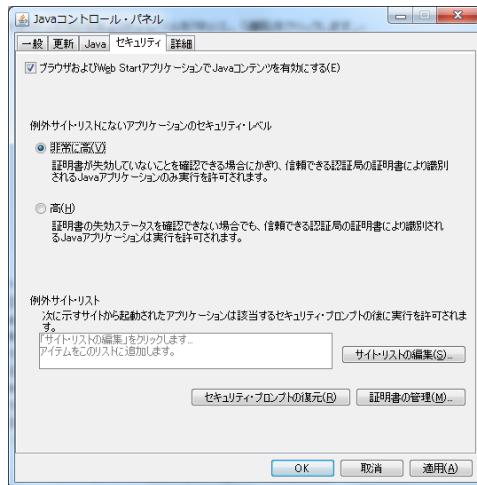
- ・Linux の場合

- 1) コマンドライン端末を起動します。
- 2) 以下のコマンドを実行します。
/usr/java/<jre のバージョン>/bin/ControlPanel

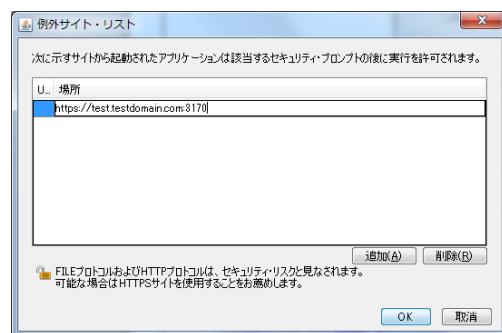
注意)Jre のバージョンは Java の版数によって異なります。

Java8 U121 の例:/usr/java/jre1.8.0_121/bin/ControlPanel

2. セキュリティタブのセキュリティ・レベルを「高」にし、「サイト・リストの編集」をクリックします。
※セキュリティレベルは Java のバージョンによって選択できるレベルが異なります。選択できるレベルの内、最も低いレベルを選択してください。



3. 「例外サイト・リスト」画面が表示されたら、「追加」をクリックします。SVOM・SVRAID の URL を追加して、「OK」をクリックします。



4. セキュリティタブの画面に戻りますので、「適用」をクリックします。

なお、インターネットに接続されていない環境でお使いの場合は、掲記の対処 1 / 対処 2 に加え、以下の設定も合わせて実施してください。

1. Java コントロール・パネルを開きます。

・Windows の場合

- 1) Windows のコントロール・パネルを開きます。
- 2) 表示されたアイコンの中から Java をダブルクリックします。

・Linux の場合

- 1) コマンドライン端末を起動します。
- 2) 以下のコマンドを実行します。

/usr/java/<jre のバージョン>/bin/ControlPanel

注意)Jre のバージョンは Java の版数によって異なります。

Java8 U121 の例:/usr/java/jre1.8.0_121/bin/ControlPanel

2. 詳細タブを開きます。

- 1) “署名付きコード証明書失効チェックを実行”で「チェックしない(非推奨)」を選択。
- 2) “TLS 証明書失効チェックを実行”で「チェックしない(非推奨)」を選択。
- 3) “高度なセキュリティ設定” - 「ブラックリストの失効チェックを有効にする」のチェックを外す。

3. 「OK」をクリックします。

(4) サポート版数表記について

本留意事項、ServerView 各製品のマニュアルや Readme ドキュメントに記載されている Java 版数について、以下ご留意ください。

「以降」と記載がある際はアップデート版数を指しています。

メジャー・バージョン版数ではありません。以下に例を記載いたします。

例) Java 7 U25(7u25)以降 → Java 7 U51 など (※1)

JRE V1.6.0_21 以降 → JRE V1.6.0_36 など (※2)

※1 Java 8 を指しているわけではありません。

※2 JRE V1.7 を指しているわけではありません

またサポート対象となるアップデート版数であったとしても、最新のアップデート版数で動作を保証するものではありません。ご了承ください。

■著作権および商標

Microsoft、Windows、Windows Server、Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Red Hat®、Red Hat Enterprise Linux®、Shadowman ロゴ、JBoss は米国およびその他の国において登録された Red Hat, Inc. の商標です。

Linux®は米国及びその他の国における Linus Torvalds の登録商標です。

Novell は、米国およびその他の国における Novell Inc.の登録商標、SUSE®および SUSE ロゴは、米国およびその他の国における SUSE LLC の商標または登録商標です。

VMware は、VMware, Inc.の登録商標です。

XenServer は、Citrix Systems, Inc.の登録商標です。

everRun は、Stratus Technologies Bermuda, Ltd.の登録商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

Copyright FUJITSU LIMITED 2019

以上